秋　田　県

土木工事共通仕様書

令和８年１０月１日以降適用

出来形管理基準

【 港　湾　編 】

赤字：秋田県独自項目
青字：今 回 改 訂 部 分
（R8.10.1 改訂）

【第4編　港湾工事編】

章、節	条	工種		種別	準用する出来形管理基準	頁
港湾工事編		共通的工種	圧密・排水工	サンドドレーン		6
				敷砂均し		6
				載荷土砂		6
				ペーパードレーン		7
				グラベルマット		7
				グラベルドレーン		7
			締固工	ロッドコンパクション		8
				サンドコンパクションパイル		8
				盛上土砂撤去		8
				敷砂均し		8
			固化工	深層混合処理杭		9
				敷砂均し		9
				事前混合処理		9
				表層固化処理		9
			洗掘防止工	洗掘防止		10
			中詰工	砂・石材中詰		10
				コンクリート中詰		10
				プレパックドコンクリート中詰		10
			蓋コンクリート工	蓋コンクリート		10
			蓋ブロック工	蓋ブロック製作		10
				蓋ブロック据付		10
			鋼矢板工	先行掘削		11
				鋼矢板 イ）鋼矢板		11
				ロ）鋼管矢板		11
			控工	控鋼矢板		12
				控鋼杭		12
				プレキャストコンクリート控壁		12
				場所打コンクリート控壁		13
				腹起		13
				タイ材 イ）タイロッド取付		13
				ロ）タイワイヤー取付		13
			鋼杭工	先行掘削		14
				鋼杭		14
			コンクリート杭工	コンクリート杭		14
			防食工	電気防食		15
				FRP モルタル被覆		15
				ペトロラタム被覆		15
				コンクリート被覆		15
				防食塗装		15

【第4編　港湾工事編】

章、節	条	工種		種別	準用する出来形管理基準	頁
港湾工事編		共通的工種	コンクリート舗装工	下層路盤		16
				上層路盤		16
				コンクリート舗装版		16
			アスファルト舗装工	下層路盤		17
				上層路盤		17
				基層		17
				表層		17
			植生工	張芝		18
				筋芝		18
				播種		18
				種子吹付		18
				植栽		18
		海上地盤改良工	床掘工	ポンプ床掘		18
				グラブ床掘		18
				硬土盤床掘		18
				砕岩床掘		18
				バックホウ床掘		18
			置換工	置換材均し		19
			圧密・排水工	圧密・排水工		6 7
			締固工	締固工		8
			固化工	固化工		9
		基礎工	基礎盛砂工	盛砂均し		19
			洗掘防止工	洗掘防止工		10
			基礎砕石工	基礎砕石 (均しを行わない面)		20
				捨石本均し		20
				捨石荒均し		20
			基礎ブロック工	基礎ブロック製作		21
				基礎ブロック据付		21
		本体工(ケーソン式)	ケーソン製作工	ケーソン製作		21
			ケーソン進水据付工	ケーソン進水据付		22
			中詰工	中詰工		10
			蓋コンクリート工	蓋コンクリート工		10
			蓋ブロック工	蓋ブロック工		10
		本体工(ブロック式)	本体ブロック製作工	本体ブロック製作		23
			本体ブロック据付工	本体ブロック据付		23
			中詰工	中詰工		10
			蓋コンクリート工	蓋コンクリート工		10
			蓋ブロック工	蓋ブロック工		10
		本体工(場所打式)	場所打コンクリート工	場所打コンクリート工 イ）防波堤		24
				ロ）岸壁		24
			水中コンクリート工	水中コンクリート工		24

【第4編　港湾工事編】

章、節	条	工種		種別	準用する出来形管理基準	頁
港湾工事編		本体工(場所打式)	プレパックドコンクリート工	プレパックドコンクリート工		24
			水中不分離性コンクリート工	水中不分離性コンクリート工		24
		本体工(捨石・捨ブロック式)	洗掘防止工	洗掘防止工		10
			本体捨石工	本体捨石工		20
			捨ブロック工	捨ブロック製作		25
				捨ブロック据付		25
			場所打コンクリート工	場所打コンクリート工		26
		本体工(鋼矢板式)	鋼矢板工	鋼矢板工		11
			控工	控工		12 13
		本体工(コンクリート矢板式)	コンクリート矢板工	コンクリート矢板		26
			控工	控工		12 13
		本体工(鋼杭式)	鋼杭工	鋼杭工		14
		本体工(コンクリート杭式)	コンクリート杭工	コンクリート杭工		14
		被覆・根固工	被覆石工	被覆石 (均しを行わない面)		27
				被覆石均し		27
			被覆ブロック工	被覆ブロック製作		28
				被覆ブロック据付		28
			根固ブロック工	根固ブロック製作		28
				根固ブロック据付		28
		上部工	上部コンクリート工	上部コンクリート工 イ）防波堤		28
				ロ）岸壁		28
				ハ）桟橋		28
			上部ブロック工	上部ブロック製作		29
				上部ブロック据付 イ）防波堤		29
				ロ）岸壁		29
				ハ）桟橋上部コンクリート		29
		付属工	係船柱工	係船柱		29
			防舷材工	防舷材		29
			車止・縁金物工	車止・縁金物工		30
			防食工	防食工		15
			付属設備工	係船環		30
		消波工	洗掘防止工	洗掘防止工		10
			消波ブロック工	消波ブロック製作		30
				消波ブロック据付		30
		裏込・裏埋工	裏込工	裏込材 (均しを行わない面)		31
				裏込均し		31
				吸出し防止材		31
			裏埋工	裏埋材		31
			裏埋土工	土砂掘削		31

【第 4 編　港湾工事編】

章、節	条	工種		種別	準用する出来形管理基準	頁
港湾工事編		裏込・裏埋工	裏埋土工	土砂盛土		31
		陸上地盤改良工	圧密・排水工	圧密・排水工		6
			締固工	締固工		8
			固化工	固化工		9
		土工	掘削工	土砂掘削		32
			盛土工	土砂盛土		32
			路床盛土工	路床盛土		32
			法面工	法面		31 18
		舗装工	コンクリート舗装工	コンクリート舗装工		16
			アスファルト舗装工	アスファルト舗装工		17
		維持補修工	維持塗装工	係船柱塗装		33
				車止塗装 イ）鋼製		33
				ロ）その他		33
				縁金物塗装		33
			防食工	防食工		15
		構造物撤去工	取壊し工	コンクリート取壊し		34
			撤去工	水中コンクリート撤去		34
				鋼矢板等切断撤去		34
				腹起・タイ材撤去		34
				舗装版撤去		34
				石材撤去		34
				ケーソン撤去		34
				ブロック撤去		34
				鋼矢板・H 型鋼杭引き抜き撤去		34
		仮設工	仮設鋼矢板工	仮設鋼矢板・ H 型鋼杭		35
			仮設鋼管杭・鋼管矢板工	先行掘削		11
				仮設鋼管杭・鋼管矢板工		11 14
			仮設道路工	仮設道路工		16 17
		雑工	現場鋼材溶接工	現場鋼材溶接		35
				被覆溶接(水中)		35
				スタッド溶接(水中)		35
			現場鋼材切断工	現場鋼材切断 イ）陸上現場切断		36
				ロ）水中切断		36
			その他雑工	清掃		36
				削孔		36
		浚渫工	ポンプ浚渫工	ポンプ浚渫		36
			グラブ浚渫工	グラブ浚渫		36
			硬土盤浚渫工	硬土盤浚渫		36
			岩盤浚渫工	砕岩浚渫		36

【第 4 編　港湾工事編】

章、節	条	工種		種別	準用する出来形管理基準	頁
港湾工事編		浚渫工	バックホウ浚渫工	バックホウ浚渫		36
		埋立工	固化工	固化工		9
			埋立土工	土砂掘削		31
				土砂盛土		31
		道路舗装工	コンクリート舗装工	コンクリート舗装工		16
			アスファルト舗装工	アスファルト舗装工		17
			道路付属工	縁石		38
				区画線及び道路標示		38
				道路標識		38
				防護柵		38
		緑地工	植生工	植生工		18
		船揚場	船揚場	船揚場		38
		海岸構造物工				38

1．共通的工種

1－1　圧密・排水工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．サンドドレーン	位置	自動位置決め装置 又は トランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 ＋規定しない －0 先端深度 ＋0 －規定しない	＋；設計値より浅い（高い）ことをいう。 －；設計値より深い（低い）ことをいう。（　）は陸上。
	砂の投入量	打込記録の確認	全数	0.1m3	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
2．敷砂均し	延長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	様式・出来形1-1-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高１cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高　±30cm 天端幅、法面勾配は特記仕様書による。	
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
3．載荷土砂	延長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －0	
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高１cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高　±50cm 天端幅、法面勾配は特記仕様書による。	
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
4．ペーパードレーン	位置	自動位置決め装置 又は トランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 ＋規定しない －0 先端深度 ＋0 －規定しない	＋；設計値より浅い （高い）ことをいう。 －；設計値より深い （低い）ことをいう。 （　）は陸上。
	ドレーン材の打込長	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙に打込長を記入し提出		
5．グラベルマット	延長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －0	様式・出来形1-1-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高1cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm 天端幅、法面勾配は特記仕様書による。	
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
6．グラベルドレーン	位置	自動位置決め装置 又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 ＋規定しない －0 先端深度 ＋0 －規定しない	＋；設計値より浅い （高い）ことをいう。 －；設計値より深い （低い）ことをいう。 （　）は陸上。
	砕石の投入量	打込記録の確認	全数	0.1m3	打込記録紙に砕石の投入量を記入し提出		

１－２　締固工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．ロッドコンパクション	位置	自動位置決め装置 又は トランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	10cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
	充填材の投入量			1.0m3	測定記録等の提出		
	天端高	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録の提出	天端高 ＋規定しない －０	
	先端深度	打込記録の確認	全数	10cm	打込記録の提出	先端深度 ＋０ －規定しない	＋；設計値より浅い （高い）ことをいう。 －；設計値より深い （低い）ことをいう。 （　）は陸上。
２．サンドコンパクションパイル	位置	自動位置決め装置 又は トランシット及び光波 測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。	１cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	様式・出来形1-2-2参照。 自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	砂杭全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 ＋規定しない －０ 先端深度 ＋０ －規定しない	＋；設計値より浅い （高い）ことをいう。 －；設計値より深い （低い）ことをいう。 （　）は陸上。
	砂の投入量	打込記録の確認	砂杭全数	0.1m3	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
	盛上り量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は特記仕様書による。	10cm	盛上り量の平面図を作成し提出		
３．盛上土砂撤去	撤去量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は特記仕様書による。	10cm	撤去量の平面図を作成し提出		
４．敷砂均し							1-1-2敷砂均しを適用する。

１－３　固化工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．深層混合処理杭	位置	自動位置決め装置 又は トランシット及び光波測距儀により測定	海上施工は改良杭全数。 陸上施工は特記仕様書による。	１cm	管理図に測定結果を記入し提出	トランシット及び光波測距儀等により測定する場合は特記仕様書による。	様式・出来形1-3-1参照。 自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
	鉛直度接合	トランシット及び傾斜計等により処理機の鉛直度を測定	改良杭全数深度方向に２～５ｍ程度毎に測定 （引抜きと貫入時）	１分又は１cm	改良杭先端部の軌跡図を作成し提出	特記仕様書による。	陸上施工は除く。
	天端高 先端深度	深度計、ワイヤー繰出長さ、潮位計、乾舷及び処理機等により確認	改良杭全数	１cm	打込記録紙又は打込記録データに天端高、先端深度を記入し管理表を提出	天端高 ＋規定しない －０ 先端深度 ＋０ －規定しない	＋；設計値より浅い （高い）ことをいう。 －；設計値より深い （低い）ことをいう。 （　）は陸上。
	固化材吐出量	流量計等により固化材のｍ当りの吐出量を確認	改良杭全数	１ℓ又は１ｔ	打込記録紙又は打込記録データに固化材吐出量を記入し提出		
	盛上り量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	改良前、改良後	10cm	盛上り量の図面を作成し提出		
２．敷砂均し							1-1-2敷砂均しを適用する。
３．事前混合処理	延長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －０	
	天端高、 天端幅	陸上部：スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高１cm	管理図に天端高、天端幅を記入し提出	特記仕様書による。	
		水中部：スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
４．表層固化処理	延長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －０	
	天端高、 天端幅、 厚さ	スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高・厚さ１cm	管理図に天端高、天端幅、厚さを記入し提出	特記仕様書による。	

１－４　洗掘防止工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．洗掘防止	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに１箇所以上。	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特記仕様書による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、ゴムマット、合成樹脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	１枚に２点	１cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット、ゴムマット) 30cm以上（合成樹脂系マット）	
	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	＋規定しない －10cm	

１－５　中詰工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．砂・石材中詰	天端高	レベル、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	１室につき１箇所(中心)	１cm	管理表を作成し提出	陸上 ±５cm 水中 ±10cm	様式・出来形1-5-1参照
２．コンクリート中詰 ３．プレパックドコンクリート中詰	天端高	レベル、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	１室につき１箇所(中心)	１cm	管理表を作成し提出	陸上 ±３cm 水中 ±５cm	

１－６　蓋コンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．蓋コンクリート	天端高	レベル、スチールテープ等により測定	１室につき１箇所(中心)	１cm	管理表を作成し提出	陸上 ±３cm 水中 ±５cm	様式・出来形1-6-1参照

１－７　蓋ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．蓋ブロック製作	幅、 高さ、 長さ、 壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	１cm	管理表を作成し提出	幅　＋２cm,－１cm 高さ ＋２cm,－１cm 長さ ＋２cm,－１cm 壁厚 ±１cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	１cm	管理表を作成し提出		
２．蓋ブロック据付	蓋ブロック据付（天端高）	レベル、スチールテープ等により測定	１室につき１箇所	１cm	管理表を作成し提出		

１－８　鋼矢板工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．先行掘削	位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	全数	10cm	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	掘削長 掘削深度	レベル等により測定	全数	10cm	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	＋；設計値より浅いことをいう －；設計値より深いことをいう
	掘削径	スチールテープ等により測定（水中の場合はケーシング径等により確認）	全数（水中の場合は適宜）	10cm	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
２．鋼矢板							
イ）鋼矢板	打込記録	①矢板の貫入量 ②矢板の打撃回数 について、様式により提出	40枚に１枚		打込記録を提出		様式・出来形1-8-2参照 振動式及び圧入式の打込機を使用する場合の観測項目及び様式は特記仕様書の定めによる。
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	１cm	管理表を作成し提出	＋矢板１枚幅 －０	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に１枚 及び 計画法線の変化点	１cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に１枚 及び 計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時（両端部）	１cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板１枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に１枚	１cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全数		観察結果を報告		
ロ）鋼管矢板	打込記録	①矢板の貫入量 ②矢板の打撃回数 について、様式により提出	20本に１本		打込記録を提出		様式・出来形1-8-2参照 振動式及び圧入式の打込機を使用する場合の観測項目及び様式は特記仕様書の定めによる。
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	１cm	管理表を作成し提出	特記仕様書による。	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、10本に１本 及び 計画法線の変化点	１cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数確認後 10本に１本 及び 変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時（両端部）	１cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板１枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、10本に１本	１cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水士)	全数		観察結果を報告		

１－９　控工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
１．控鋼矢板	打込記録	①矢板の貫入量 ②矢板の打撃回数 について、様式により提出	40枚に１枚		打込記録を提出		様式・出来形1-8-2参照 振動式及び圧入式の打込機を使用する場合の観測項目及び様式は特記仕様書の定めによる。
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	１cm	管理表を作成し提出	＋矢板１枚幅 －０	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に１枚 及び 計画法線の変化点	１cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に１枚 及び 計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時（両端部）	１cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板１枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に１枚	１cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全　数		観察結果を報告		
２．控鋼杭	打込記録	①杭の貫入量 ②杭の打撃回数 ③打止り付近のリバウンド量 ④打止り付近のラム落下高又は打撃エネルギー について、様式により提出	20本に１本		打込記録を提出		様式・出来形1-10-2参照 振動式及び圧入式の打込機を使用する場合の観測項目及び様式は特記仕様書の定めによる。
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ	打込完了時、全数	１cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数	１cm	管理表を作成し提出	±５cm	
	杭の傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	１°	管理表を作成し提出	直杭　２°以下 斜杭　３°以下	
３．プレキャストコ ンクリート控壁	幅、 高さ、 長さ、 壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外後全数	１cm	管理表を作成し提出	幅　＋２cm, －１cm 高さ　＋２cm, －１cm 長さ　＋２cm, －１cm 壁厚　±１cm	
	法線に対する出入	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	据付後ブロック１個につき２箇所（最下段、最上段）	１cm	管理表を作成し提出	±５cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック１個につき２箇所（最下段、最上段）	１cm	管理表を作成し提出	特記仕様書による。	
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	１cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック１個につき２箇所	１cm	管理表を作成し提出		

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
4．場所打コンクリート控壁	天端高 又は 厚さ	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は特記仕様書による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1cm	測定表を作成し提出	±2cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0	
	法線に対する出入	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1cm	測定表を作成し提出	±3cm	
5．腹起	取付高さ	レベル等により測定	取付完了時、両端（継手毎）全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-9-5参照
	継手位置	観察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	ボルトの取付け	観察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	矢板と腹起しとの密着	観察	タイロッド毎、全数		観察結果を報告		
6．タイ材							
イ）タイロッド取付	取付け高さ及び水平度	レベル等により測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-9-6参照 腹起しに取り付ける場合は不要
	矢板法線に対する取付角度及び取付間隔	スチールテープ等により測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		
	定着ナットの締付け	観察	全数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き出していること。	
	ターンバックルのねじ込み長さ	観察	全数	1cm	観察結果を報告	定着ナットの高さ以上	
	リングジョイントのコンクリートへの埋込み	観察	全数		観察結果を報告		
	支保材の天端高	レベル等により測定	適宜	1cm	管理表を作成し提出		
ロ）タイワイヤー取付	取付高さ	レベル等により測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		腹起しに取り付ける場合は不要
	矢板法線に対する取付角度及び取付間隔	スチールテープ等により測定	締付後両端、全数	1cm	管理表を作成し提出		
	定着ナットの締付け	観察	全数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き出していること。	
	定着具端部栓の取付け	観察	全数		観察結果を報告		
	トランペットシースの取付	観察	全数		観察結果を報告		

１－10　鋼杭工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．先行掘削							1-8-1先行掘削を適用する。
２．鋼　杭	打込記録	①杭の貫入量 ②杭の打撃回数 ③打止り付近のリバウンド量 ④打止り付近のラム落下高又は打撃エネルギー について、様式により提出	20本に１本		打込記録を提出		様式・出来形1-10-2参照 振動式及び圧入式の打込機を使用する場合の観測項目及び様式は特記仕様書の定めによる。
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数	１cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベル等により測定	打込完了時、全数	１cm	管理表を作成し提出	±５cm	
	杭の傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	１°	管理表を作成し提出	直杭　２° 以下 斜杭　３° 以下	

１－11　コンクリート杭工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．コンクリート杭	打込記録	JIS A 7201 記録	支持杭は全数、 支持杭以外は20本に１本		JIS A 7201 付表５打込み工法記録を作成し提出		
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数	１cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベル等により測定	打込完了時、全数	１cm	管理表を作成し提出	±５cm	
	杭の傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	１°	管理表を作成し提出	直杭　２° 以下 斜杭　３° 以下	

１－12　防食工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．電気防食	取付位置	目視（承諾された図面より確認）潜水士による。	取付完了後、全数	1cm	測定表を作成し提出	±20cm ※水深の変状等により図面通りに取付が困難な場合は別途協議とする。	様式・出来形1-12-1参照
	電位測定	測定機器による。	取付完了後、測定端子取付箇所毎	１ｍＶ	測定表を作成し提出	飽和かんこう電極基準；－770ｍＶ 海水塩化銀基準；－780ｍＶ 又は 飽和硫酸銅電極基準；－850ｍＶ	
２．ＦＲＰモルタル被覆	取付高さ （被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、保護カバーの上端又は下端高さ（被覆範囲の確認） 鋼管杭；全数 矢板；１打設３箇所以上	特記仕様書による	測定表を作成し提出	特記仕様書による	測定密度における矢板の１打設とは、コンクリートモルタルの配合１回当たりの打設を示す。
３．ペトロラタム被覆	取付高さ （被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、保護カバーの上端又は下端高さ（被覆範囲の確認） 鋼管杭；全数 矢板；監督職員の指示による	特記仕様書による	測定表を作成し提出	特記仕様書による	
４．コンクリート被覆	高さ （被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、上端・下端高さ（被覆範囲の確認） 鋼管杭；全数 矢板；１打設３箇所以上	特記仕様書による	測定表を作成し提出	特記仕様書による	測定密度における矢板の１打設とは、コンクリートモルタルの配合１回当たりの打設を示す。
５．防食塗装	高さ （被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、上端・下端高さ（被覆範囲の確認） 鋼管杭；全数 矢板；50㎡に１箇所以上	特記仕様書による	測定表を作成し提出	特記仕様書による	

１－13　コンクリート舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
１．下層路盤	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の３点を延長20mに１箇所、 道路舗装は中心及び両端部の３点を延長40mに１箇所	１cm	測定表を作成し提出	±４cm	様式・出来形1-13-1参照
	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000m2に１箇所、 道路舗装は特記仕様書による。	１mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －4.5cm	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに１箇所、 道路舗装は延長40mに１箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －５cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端２箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
２．上層路盤	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000m2に１箇所、 道路舗装は特記仕様書による。	１mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －2.5cm	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに１箇所、 道路舗装は延長40mに１箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －５cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端２箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
３．コンクリート舗 装版	厚さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の３点を延長20mに１箇所、 道路舗装は中心及び両端部の３点を延長40mに１箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －１cm	コンクリート版の厚さ、その他を確認するため、監督職員が必要と認めたときは、コアを採取する。
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに１箇所、 道路舗装は延長40mに１箇所	１mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －2.5cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端２箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
	平坦性	３mプロフィルメータにより測定	各レーン毎全延長	１mm	記録紙及び管理表を作成し提出	機械舗設の場合 ２mm以下 人力舗設の場合 ３mm以下	

１－14　アスファルト舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．下層路盤	高さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の３点を延長20mに１箇所、 道路舗装は中心及び両端部の３点を延長40mに１箇所	１cm	測定表を作成し提出	±５cm	
	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000m2に１箇所、 道路舗装は特記仕様書による。	１mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －4.5cm	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに１箇所、 道路舗装は延長40mに１箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －５cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端２箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
２．上層路盤	厚さ	レベル等により測定	舗装は1,000ｍ２に１箇所、 道路舗装は特記仕様書による。	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －３cm	
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに１箇所、 道路舗装は延長40mに１箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －５cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端２箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
３．基層	厚さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m2に１箇所	１mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －1.2cm	様式・出来形1-14-3参 照
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに１箇所、 道路舗装は延長40mに１箇所	１mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －2.5cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端２箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
４．表層	厚さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m2に１箇所	１mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －９mm	様式・出来形1-14-3参照
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに１箇所、 道路舗装は延長40mに１箇所	１mm	測定表を作成し提出	＋規定しない －2.5cm	
	延長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端２箇所	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
	平坦性	３mプロフィルメータにより測定	各レーン毎全延長	１mm	記録紙及び管理表を作成し提出	2.4mm以下	

１－15　植生工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
１．張芝 ２．筋芝	材料の使用 数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅 （面積）	スチールテープ等により測定	施工完了後	10cm (0.1m2)	管理表を作成し提出	＋規定しない －０	
	植生状況	観察	施工完了後、区域全体		観察結果を報告		
３．播　種 ４．種子吹付	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅 （面積）	スチールテープ等により測定	施工完了後	10cm (0.1m2)	管理表を作成し提出	＋規定しない －０	
	植生状況	特記仕様書による。	特記仕様書による。		特記仕様書による。	特記仕様書による。	
５．植栽	材料の使用数量	使用数量表等により確認	搬入時、全数		使用数量表等を作成し提出		
	樹高、 枝張り幅、 幹周り	スチールテープ等により測定	種類毎、搬入後適宜	樹高、枝張り幅 10cm 幹周り　１cm	管理表を作成し提出	＋規定しない －０	
	植付け状況	観察	施工完了後、全本数		観察結果を報告		

２．土捨工

３．海上地盤改良工

３－１　床掘工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．ポンプ床掘 ２．グラブ床掘 ３．硬土盤床掘 ４．砕岩床掘 ５．バックホウ床掘	水　深 （底面）	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	特記仕様書による。	10cm	平面図に実測値を記入し提出	±30cm 又は特記仕様書による。	断面図は監督職員が指示したとき作成し提出
	（法面）	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	特記仕様書による。	10cm	平面図に実測値を記入し提出	外側　２ｍ(法面に直角) 内側 30cm(法面に直角) 又は特記仕様書による。	

３－２　置換工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．置換材均し	延　長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －０	様式・出来形3-2-1参照
	天端高、 天端幅、 法面	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高　1 cm 天端幅　10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高　±50cm又は特記仕様書による 天端幅、法面は特記仕様書による。	
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は 音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			

３－３　圧密・排水工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
圧密・排水工							1-1圧密・排水工を適用する。

３－４　締固工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
締固工							1-2締固工を適用する。

３－５　固化工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
固化工							1-3固化工を適用する。

４．基礎工

４－１　基礎盛砂工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．盛砂均し	延　長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －０	様式・出来形1-1-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高　±30cm 天端幅、法面勾配は特記仕様書による。	

４－２　洗掘防止工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
洗掘防止工							1-4洗掘防止工を適用する。

４－３　基礎捨石工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．基礎捨石 (均しを行わない面)	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	特記仕様書による。	
	法面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点３点以上、 但し、マウンド厚２m以下の場合は２点以上	10cm	出来形図を作成し提出	特記仕様書による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	特記仕様書による。	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	特記仕様書による。	
２．捨石本均し	天端高	レベル又は特記仕様書により測定	測線及び測点間隔は10m以下	１cm	出来形図を作成し提出	±５cm	様式・出来形4-3-2参照
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	
３．捨石荒均し	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	注)-1 ±50cm、 岸壁前面 ＋０，－20cm 又は特記仕様書による。 異形ブロック据付面（整積）の高さ（法面に直角） ±30cm 又は特記仕様書による。	注)-1 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適 用しない。
	法面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点３点以上、 但し、マウンド厚２m以下の場合は２点以上	10cm	出来形図を作成し 提出	注)-2 ±50cm（法面に直角） 異形ブロック据付面（整積）の高さ（法面に直角） ±30cm 又は特記仕様書による。	注)-2 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適 用しない。
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	

4－4　基礎ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．基礎ブロック製作	幅、 高さ、 長さ、 壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅　＋2cm,－1cm 高さ ＋2cm,－1cm 長さ ＋2cm,－1cm 壁厚 ±1cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法（異形ブロック）	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	ブロック外観（異形ブロック）	観察	全　数		観察結果を報告		
2．基礎ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3cm以下	
	延　長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）	1cm	管理表を作成し提出		

5．本体工（ケーソン式）

5－1　ケーソン製作工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．ケーソン製作	摩擦増大用マット敷設位置	スチールテープ等により確認	始・終端及び変化する箇所毎	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特記仕様書による。	
	高さ	スチールテープ等により測定	完成時、四隅	1cm	管理表を作成し提出	＋3cm －1cm	様式・出来形5-1-1参照
	幅	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端	1cm	管理表を作成し提出	＋3cm －1cm	
	長さ	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端	1cm	管理表を作成し提出	＋3cm －1cm	
	壁厚	スチールテープ等により測定	各層完成時、各壁1箇所	1cm	管理表を作成し提出	±1cm	
	底版厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	底版完成時、各室中央部1箇所	1cm	管理表を作成し提出	＋3cm －1cm	
	フーチング高さ	スチールテープ等により測定	底版完成時、四隅	1cm	管理表を作成し提出	＋3cm －1cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	底版完成時及び完成時	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	バラスト	レベル、レッド等により測定	各室中央部1箇所	1cm	管理表を作成し提出	砕石・砂　±10cm ｺﾝｸﾘｰﾄ　±5cm	投入量管理

５－２　ケーソン進水据付工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．ケーソン進水据付	法線に対する出入	トランシット及びスチールテープ等により測定	据付完了後、両端２箇所	１cm	管理表を作成し提出	防波堤　ｹｰｿﾝ質量 2,000t未満　±20cm 2,000t以上　±30cm 岸　壁　ｹｰｿﾝ質量 2,000t未満　±10cm 2,000t以上　±15cm	様式・出来形5-2-1参照
	据付目地間隔	スチールテープ等により測定	据付完了後、天端２箇所	１cm	管理表を作成し提出	防波堤　ｹｰｿﾝ質量 2,000t未満　20cm以下 2,000t以上　30cm以下 岸　壁　ｹｰｿﾝ質量 2,000t未満　10cm以下 2,000t以上　20cm以下	
	天端高さ	レベルにより測定	据付完了後、四隅 中詰完了時、四隅	１cm	管理表を作成し提出		
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上	１cm	管理表を作成し提出		

５－３　中詰工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
中詰工							1-5中詰工を適用する。

５－４　蓋コンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
蓋コンクリート工							1-6蓋コンクリート工を適用する。

５－５　蓋ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
蓋ブロック工							1-7蓋ブロック工を適用する。

6．本体工（ブロック式）

6－1　本体ブロック製作工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．本体ブロック製作	幅、 高さ、 長さ、 壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出	幅　＋2cm,－1cm 高さ ＋2cm,－1cm 長さ ＋2cm,－1cm 壁厚 ±1cm	様式・出来形6-1参照 L型ブロック セルラーブロック ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形6-1参照 セルラーブロック ブロック(方塊)
	型枠形状寸法（異形ブロック）	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	ブロック外観（異形ブロック）	観察	全数		観察結果を報告		

6－2　本体ブロック据付工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．本体ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1cm	管理表を作成し提出	±5cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1cm	管理表を作成し提出	L型ブロック セルラーブロック 5cm以下 直立消波ブロック ブロック(方塊) 3cm以下	
	延　長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）	1cm	管理表を作成し提出		

6－3　中詰工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
中詰工							1-5中詰工を適用する。

6－4　蓋コンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
蓋コンクリート工							1-6蓋コンクリート工を適用する。

6－5　蓋ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
蓋ブロック工							1-7蓋ブロック工を適用する。

7．本体工（場所打式）

7－1　場所打コンクリート工

工　　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
場所打コンクリート工							
イ）防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は１スパン４箇所以上 パラペット頂部は１スパン２箇所以上	１cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±２cm 天端幅10mを超える場合は＋５cm －２cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は特記仕様書による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	１スパン３箇所	１cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±３cm 天端幅10mを超える場合は＋５cm －３cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	１スパン２箇所	１cm	測定表を作成し提出	±５cm 注） 又は特記仕様書による。	
ロ）岸壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	１スパン３箇所	１cm	測定表を作成し提出	±２cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は特記仕様書による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	１スパン３箇所	１cm	測定表を作成し提出	±２cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	１スパン２箇所	１cm	測定表を作成し提出	±３cm	
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎	１cm	測定表を作成し提出		

7－2　水中コンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
水中コンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

7－3　プレパックドコンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
プレパックドコンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

7－4　水中不分離性コンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
水中不分離性コンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

８．本体工（捨石・捨ブロック式）

８－１　洗掘防止工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
洗掘防止工							1-4洗掘防止工を適用する。

８－２　本体捨石工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
本体捨石工							4-3基礎捨石工を適用する。

８－３　捨ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．捨ブロック製作	幅、 高さ、 長さ、 壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	１cm	管理表を作成し提出	幅　＋２cm,－１cm 高さ ＋２cm,－１cm 長さ ＋２cm,－１cm 壁厚 ±１cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	１cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法 （異形ブロック）	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	ブロック外観 （異形ブロック）	観察	10個に１個以上測定		観察結果を報告		
２．捨ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック１個につき２箇所（最下段、最上段）	１cm	管理表を作成し提出	±５cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック１個につき２箇所（最下段、最上段）	１cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) ３cm以下	
	延　長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	１cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック１個につき２箇所（最上段のみ）	１cm	管理表を作成し提出		

8－4　場所打コンクリート工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
場所打コンクリート工	天端高	レベル等により測定	天端面は１スパン４箇所以上 パラペット頂部は１スパン２箇所以上	１cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±２cm 天端幅10mを超える場合は＋５cm －２cm	様式・出来形14-1参照 天端高さの管理項目の選定は特記仕様書による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	１スパン３箇所	１cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±３cm 天端幅10mを超える場合は＋５cm －３cm	
	延　長	スチールテープ等により測定	法線上	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	１スパン２箇所	１cm	測定表を作成し提出	±５cm 注）又は特記仕様書による。	

9．本体工（鋼矢板式）

9－1　鋼矢板工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
鋼矢板工							1-8鋼矢板工を適用する。

9－2　控　工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
控　工							1-9控工を適用する。

10．本体工（コンクリート矢板式）

10－1　コンクリート矢板工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．コンクリート矢板	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	１cm	管理表を作成し提出	＋矢板１枚幅 －０	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に１枚 及び計画法線の変化点	１cm	管理表を作成し提出	特記仕様書による。	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に１枚 及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	特記仕様書による。	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）	１cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板１枚幅未満 2/100以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に１枚	１cm	管理表を作成し提出	±５cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察(水中部は潜水士)	全　数		観察結果を報告		

10－2　控　工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
控　工							1-9控工を適用する。

11．本体工（鋼杭式）

11－1．鋼杭工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
鋼杭工							1-10鋼杭工を適用する。

12．本体工（コンクリート杭式）

12－1　コンクリート杭工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
コンクリート杭工							1-11コンクリート杭工を適用する。

13．被覆・根固工

13－1 被覆石工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．被覆石 (均しを行わない面)	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	特記仕様書による。	様式・出来形13-1-1参照
2．被覆石均し	天端面	音響測深機、レッド又 はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm 異形ブロック据付面 （整積）±30cm 岸壁前面 ＋０、-20cm又は特記仕様書 による。	
	法　面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下、測点３点以上 但し、マウンド厚２m以下の場合は２点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm（法面に直角） 異形ブロック据付面 （整積）の高さ （法面に直角）±30cm又は特記仕様書による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －20cm	
	延　長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －20cm	

13－２　被覆ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．被覆ブロック製作	型枠形状寸法（異形ブロック）	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	ブロック外観（異形ブロック）	観察	10個に１個以上		観察結果を報告		
２．被覆ブロック据 付	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	10cm	管理表を作成し提出		

13－３　根固ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．根固ブロック製作	幅、 高さ、 長さ、 壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	１cm	管理表を作成し提出	幅　＋２cm,－１cm 高さ ＋２cm,－１cm 長さ ＋２cm,－１cm 壁厚 ±１cm	様式・出来形13-3-1参照
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	１cm	管理表を作成し提出		
２．根固ブロック据付							13-2-2被覆ブロック据付を適用する。

14．上部工

14－１　上部コンクリート工

工　　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
上部コンクリート工							
イ）防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は１スパン４箇所以上 パラペット頂部は１スパン２箇所以上	１cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±２cm 天端幅10mを超える場合は＋５cm －２cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は特記仕様書による。 注）本体がケーソンの場合ケーソン質量 2,000t未満 ±20cm 2,000t以上 ±30cm
	天端幅	スチールテープ等により測定	１スパン３箇所	１cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±３cm 天端幅10mを超える場合は＋５cm －３cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	１スパン２箇所	１cm	測定表を作成し提出	±５cm 注）又は特記仕様書による。	
ロ）岸壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	１スパン３箇所	１cm	測定表を作成し提出	±２cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は特記仕様書による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	１スパン３箇所	１cm	測定表を作成し提出	±２cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	１cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	１スパン２箇所	１cm	測定表を作成し提出	±３cm	
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎	１cm	測定表を作成し提出		
ハ）桟橋							14-1上部コンクリート工 ﾛ)岸壁を適用する。 梁(高さ、幅)、床版厚は型枠検査による。

14－２　上部ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．上部ブロック製作	幅、 高さ、 長さ、 壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	１cm	管理表を作成し提出	幅　＋２cm，－１cm 高さ ＋２cm，－１cm 長さ ＋２cm，－１cm 壁厚 ±１cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	１cm	管理表を作成し提出		
２．上部ブロック据付							
イ）防波堤							14-1上部コンクリート 工 ｲ)防波堤を適用する。
ロ）岸　壁							14-1上部コンクリート 工 ﾛ)岸壁を適用する。
ハ）桟橋上部コンクリート							14-1上部コンクリート 工 ﾊ)桟橋を適用する。

15．付属工

15－１　係船柱工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．係船柱	天端高	レベルにより測定	据付完了時、中心部、全数	１cm	管理表を作成し提出	曲柱 ±２cm 直柱 ±２cm	様式・出来形15-1-1参照
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	据付完了時、全数	１cm	管理表を作成し提出		
	中心間隔	スチールテープ等により測定	据付完了時、各スパン毎中心部、各基	１cm	管理表を作成し提出		
	直柱基礎コンクリート （ 幅 ）	スチールテープ等により測定	完了時、全数、天端両端	１cm	管理表を作成し提出		
	（長さ）	スチールテープ等により測定	完了時、全数、前後面	１cm	管理表を作成し提出		
	（高さ）	レベルにより測定	完了時、全数、中心点	１cm	管理表を作成し提出		

15－２　防舷材工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．防舷材	取付高さ	レベル又はスチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	１cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-2-1参照
	中心間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	１cm	管理表を作成し提出		

15－3　車止・縁金物工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
車止・縁金物工	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-3-1参照
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	取付完了後中心部を1点	1cm	管理表を作成し提出	±3cm	
	取付間隔	スチールテープ等により測定	上部工1スパンに2箇所	1cm	管理表を作成し提出		
	塗　装	目視による観察			観察結果を報告		
	警戒色 (シマ模様)	スチールテープ等により測定	完了時適宜		確認結果を報告		

15－4　防食工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
防食工							1-12防食工を適用する。

15－5　付属設備工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
係船環	取付位置	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1cm	管理表を作成し提出		

16. 消波工

16－1　洗掘防止工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
洗掘防止工							1-4洗掘防止工を適用する。

16－2　消波ブロック工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．消波ブロック製作	型枠形状寸法（異形ブロック）	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	ブロック外観（異形ブロック）	観察	10個に1個以上		観察結果を報告		
2．消波ブロック据付	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	10cm	管理表を作成し提出		

17. 裏込・裏埋工

17－1　裏込工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．裏込材 (均しを行わない面)	天端高	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下	陸上 1cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	特記仕様書による。	
	法面	レベル、レッドにより測定	測点は３点以上	10cm	出来形図を作成し提出	特記仕様書による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	特記仕様書による。	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	特記仕様書による。	
2．裏込均し	天端面	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下	陸上 1cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	±20cm	
	法面	レベル、レッドにより測定	測点は３点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±20cm （法面に直角）	マット等を使用する場合を含む。
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	＋規定しない －10cm	
3．吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎 並びに20mに１箇所以上	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特記仕様書による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹 脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	１枚に２点	１cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファ ルトマット・繊維系マット) 30cm以上（合成樹脂系マット）	
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	＋規定しない －10cm	

17－2　裏埋工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
裏埋材	地盤高 （陸上部）	レベル等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	１cm	平面図に実測値を記入し提出	特記仕様書による。	変化点は測定する。
	（水中部）	レベル、レッド及び音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm	平面図に実測値を記入し提出	特記仕様書による。	変化点は測定する。

17－3　裏埋土工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．土砂掘削 2．土砂盛土	地盤高	レベル等により測定	法肩、法尻及び中心を延長20mに１箇所以上	１cm	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	様式・出来形17-3-1参照
	幅	スチールテープ等により測定	延長20mに１箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	法長	スチールテープ等により測定	延長20mに１箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	延長	スチールテープ等により測定	両端及び中心	10cm	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	

18. 陸上地盤改良工

18－1　圧密・排水工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
圧密・排水工							1-1圧密・排水工を適用する。

18－2　締固工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
締固工							1-2締固工を適用する。

18－3　固化工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
固化工							1-3固化工を適用する。

19. 土　工

19－1　掘削工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．土砂掘削							17-3-1土砂掘削を適用する。

19－2　盛土工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．土砂盛土							17-3-2土砂盛土を適用する。

19－3　路床盛土工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1. 路床盛土	高　さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の３点を延長20mに１箇所、 道路舗装は中心及び両端部の３点を延長40mに１箇所	1㎝	測定表を作成し提出	±５㎝	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに１箇所、 道路舗装は延長40mに１箇所	1㎝	測定表を作成し提出	＋規定しない －10㎝	
	延　長	スチールテープ等により測定	両端２箇所	1㎝	測定表を作成し提出	＋規定しない －０	

19－4　法面工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．法　面							17-3-1土砂掘削、17-3-2土砂盛土及び1-15植生工を適用する。

20. 舗装工

20－１　コンクリート舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
コンクリート舗装工							1-13コンクリート舗装工を適用する。

20－２　アスファルト舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
アスファルト舗装工							1-14アスファルト舗装工を適用する。

21. 維持補修工

21－１ 維持塗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．係船柱塗装	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	特記仕様書による。	
２．車止塗装							
イ）鋼　製	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	特記仕様書による。	
ロ）その他	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	特記仕様書による。	
３．縁金物塗装							21-1-2車止塗装を適用する。

21－２　防食工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
防食工							1-12防食工を適用する。

22. 構造物撤去工

22－1　取壊し工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．コンクリート取壊し	幅、 高さ、 延長	ﾄﾗﾝｼｯﾄ、ｽﾁｰﾙﾃｰﾌﾟ 等により測定	特記仕様書による。	特記仕様書による。	管理表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	特記仕様書による。		観察結果を報告	特記仕様書による。	

22－2　撤去工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．水中コンクリート撤去	幅、 高さ、 延長	トランシット、スチールテープ等により測定	特記仕様書による。	特記仕様書による。	管理表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	潜水士による観察	特記仕様書による。		観察結果を報告		
2．鋼矢板等切断撤去	幅、 高さ、 延長	スチールテープ等により測定	特記仕様書による。	1 ㎝	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	特記仕様書による。		観察結果を報告		
3．腹起・タイ材撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	特記仕様書による。	特記仕様書による。	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	特記仕様書による。		観察結果を報告		
4．舗装版撤去	幅、 高さ、 延長	トランシット、スチールテープ等により測定	特記仕様書による。	特記仕様書による。	管理表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視による観察	特記仕様書による。		観察結果を報告		
5．石材撤去	幅、 高さ、 延長	トランシット、スチールテープ等により測定	特記仕様書による。	特記仕様書による。	管理表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	特記仕様書による。		観察結果を報告		
6．ケーソン撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	特記仕様書による。	特記仕様書による。	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	特記仕様書による。		観察結果を報告		
7．ブロック撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	特記仕様書による。	特記仕様書による。	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	特記仕様書による。		観察結果を報告		
8．鋼矢板・H形鋼 杭引抜き撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	特記仕様書による。	1 ㎝	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	特記仕様書による。		観察結果を報告		

23. 仮設工

23－1 仮設鋼矢板工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．仮設鋼矢板・H形鋼杭	矢板天端高	レベル等により測定	打込完了時、20枚に１枚 （H形鋼杭は全数）	１cm	管理表を作成し提出	±10cm	
	根入長	レベル等により測定	打込完了時、20枚に１枚 （H形鋼杭は全数）	10cm	管理表を作成し提出	＋規定しない －０	

23－2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．先行掘削							1-8-1先行掘削を適用する。 （任意仮設は除く）
2．仮設鋼管杭・鋼管矢板工							1-8-2鋼矢板式 ﾛ)鋼管矢板及び1-10-2鋼杭を適用する。 （任意仮設は除く）

23－3　仮設道路工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．仮設道路工							1-13コンクリート舗装工及び1-14アスファルト舗装工を適用する。

24. 雑　工

24－1　現場鋼材溶接工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．現場鋼材溶接	形状寸法 （のど厚、脚長、溶接	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	適宜	１mm	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	様式・出来形24-1-1参照
	ひずみ	目視による観察	全数		観察結果を報告		
	有害な欠陥の有無	目視による観察	適宜		観察結果を報告		
2．被覆溶接(水中)	形状寸法 （のど厚、脚長、溶接長等）	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	適宜	１mm 溶接長は１cm	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外観	潜水士による観察	全数		観察結果を報告		
3．スタッド溶接（水中）							24-1-2被覆溶接（水中）を適用する。

24－２　現場鋼材切断工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．現場鋼材切断							
イ）陸上現場切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全　数	１㎜	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視による観察	全　数		観察結果を報告		
ロ）水中切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全　数	１㎜	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	全　数		観察結果を報告		

24－３　その他雑工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．清　掃	幅、 長さ、 延長	スチールテープ等により測定	全　数	１㎜	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	全　数		観察結果を報告		
２．削　孔	形状寸法	スチールテープ等により測定	全　数	１㎜	測定表を作成し提出	特記仕様書による。	
	外　観	目視又は潜水士による観察	全　数		観察結果を報告		

25.　浚渫工

25－１　ポンプ浚渫工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．ポンプ浚渫	水　深 （底面）	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	特記仕様書による。	10cm	秋田県測量業務共通仕様書第2編 第1章 第212条の6 平面図に実測値を記入し提出	＋０ －規定しない又は特記仕様書による。	様式・出来形25-1参照 ＋；設計値より浅いことをいう。 －；設計値より深いことをいう。
	（法面）	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	特記仕様書による。	10cm	秋田県測量業務共通仕様書第2編 第1章 第212条の6 平面図に実測値を記入し提出	＋０ －規定しない又は特記仕様書による。	

25－２　グラブ浚渫工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
１．グラブ浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25－3　硬土盤浚渫工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．硬土盤浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25－4　岩盤浚渫工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．砕岩浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25－5　バックホウ浚渫工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．バックホウ浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

26. 埋立工

26－1　固化工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
固化工							1-3固化工を適用する。

26－2　埋立土工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．土砂掘削							17-3-1土砂掘削を適用する。
2．土砂盛土							17-3-2土砂盛土を適用する。

27. 道路舗装工

27－1　コンクリート舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
コンクリート舗装工							1-13コンクリート舗装工を適用する。

27－2　アスファルト舗装工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
アスファルト舗装工							1-14アスファルト舗装工を適用する。

27－3　道路付属工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
1．縁　石	高　さ	レベルにより測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	±3cm	
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －5cm	
2．区画線及び道路標示	幅	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	±1cm	
	長　さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	±10cm	
3．道路標識	高　さ	スチールテープ等により測定	1箇所に1回	1cm	測定表を作成し提出	±5cm	
4．防護柵	高　さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1cm	測定表を作成し提出	＋3cm －2cm	
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所	1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －10cm	

28.　緑地工

28－1　植生工

工　種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
植生工							1-15植生工を適用する。

29.　船揚場

29－1　船揚場

工　種	管理項目		測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備　考
船揚場	基準高		レベルにより測定	側線 10m 間隔以下 前面BL～止壁張ブロックは両面	1cm	測定表を作成し提出	水中　±5cm 水上　±2cm	
	長さ	水中	スチールテープ等により測定		1cm	測定表を作成し提出	＋5cm －0cm	
		水上	スチールテープ等により測定		1cm	測定表を作成し提出	＋5cm －0cm	
	幅 （延長）	水中、 水上	スチールテープ等により測定		1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0cm	
	厚さ	水中、 水上	スチールテープ等により測定		1cm	測定表を作成し提出	＋規定しない －0cm	

30.　海岸構造物工

海岸構造物については、河川海岸編を準用する。

様式・出来形1－1－2(1)

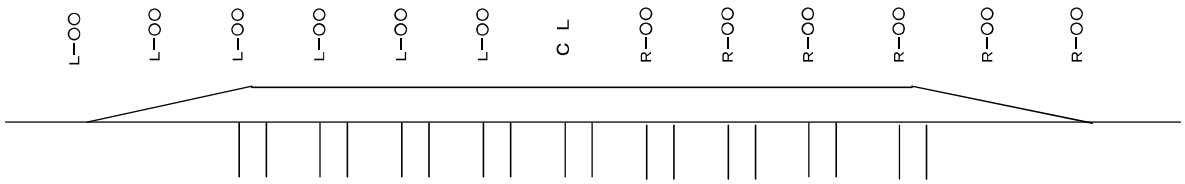
敷砂出来形管理表

平成　年　月　日

工事名：

現場代理人

測点	種別	天端高											天端幅				延長		
		L－50m	L－40m	L－30m	L－20m	L－10m	CL	R－10	R－20	R－30	R－40	R－50	港外法面	天端港外	天端港内	港内法面	港外側	法線上	港内側
NO. ○○	設計値																NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○
	測定値																～	～	～
	差																		
NO. ○○＋○. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○＋○. ○○	設計値																○○.○○m	○○.○○m	○○.○○m
	測定値																～	～	～
	差																○○.○○m	○○.○○m	○○.○○m
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○＋○. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																○○.○○m	○○.○○m	○○.○○m
	測定値																～	～	～
	差																○○.○○m	○○.○○m	○○.○○m
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																		
	測定値																		
	差																		
NO. ○○	設計値																～	～	～
	測定値																NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○
	差																		

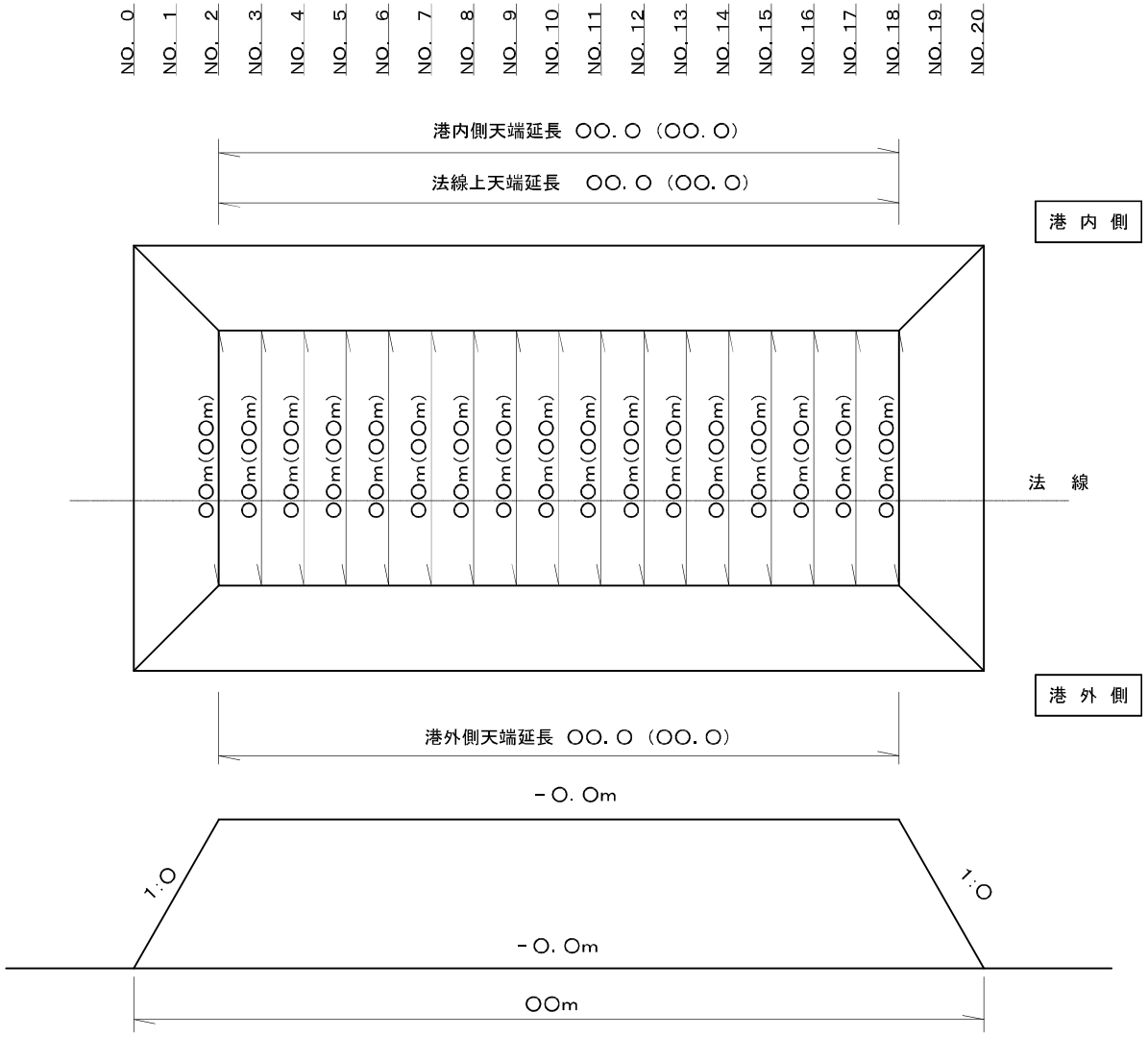


工事名：

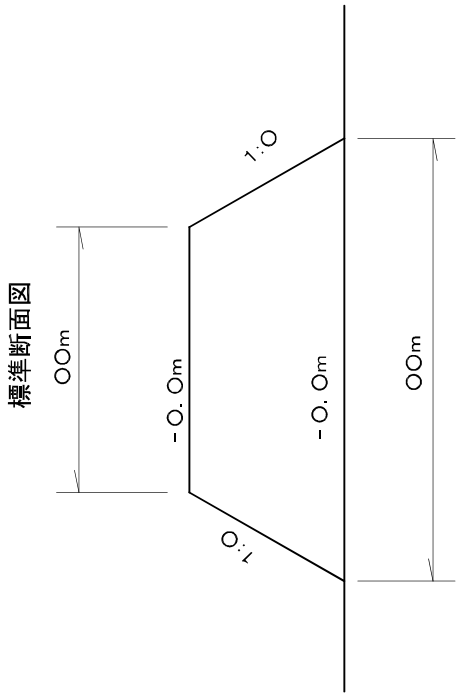
敷砂出来形管理図

様式・出来形1－1－2(2)

敷砂　平面図



標準断面図



凡　例

（　）：設計値

実　数：実測値

様式・出来形1－2－2(1)

サンドコンパクションパイル出来形管理表

平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

杭列＼杭番号		1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
A列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
	差															

杭列＼杭番号		1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
B列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
	差															

杭列＼杭番号		1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
○列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
	差															

杭列＼杭番号		1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
○列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
	差															

様式・出来形１－２－２(2)

砂投入管理表

工事名:　　現場代理人

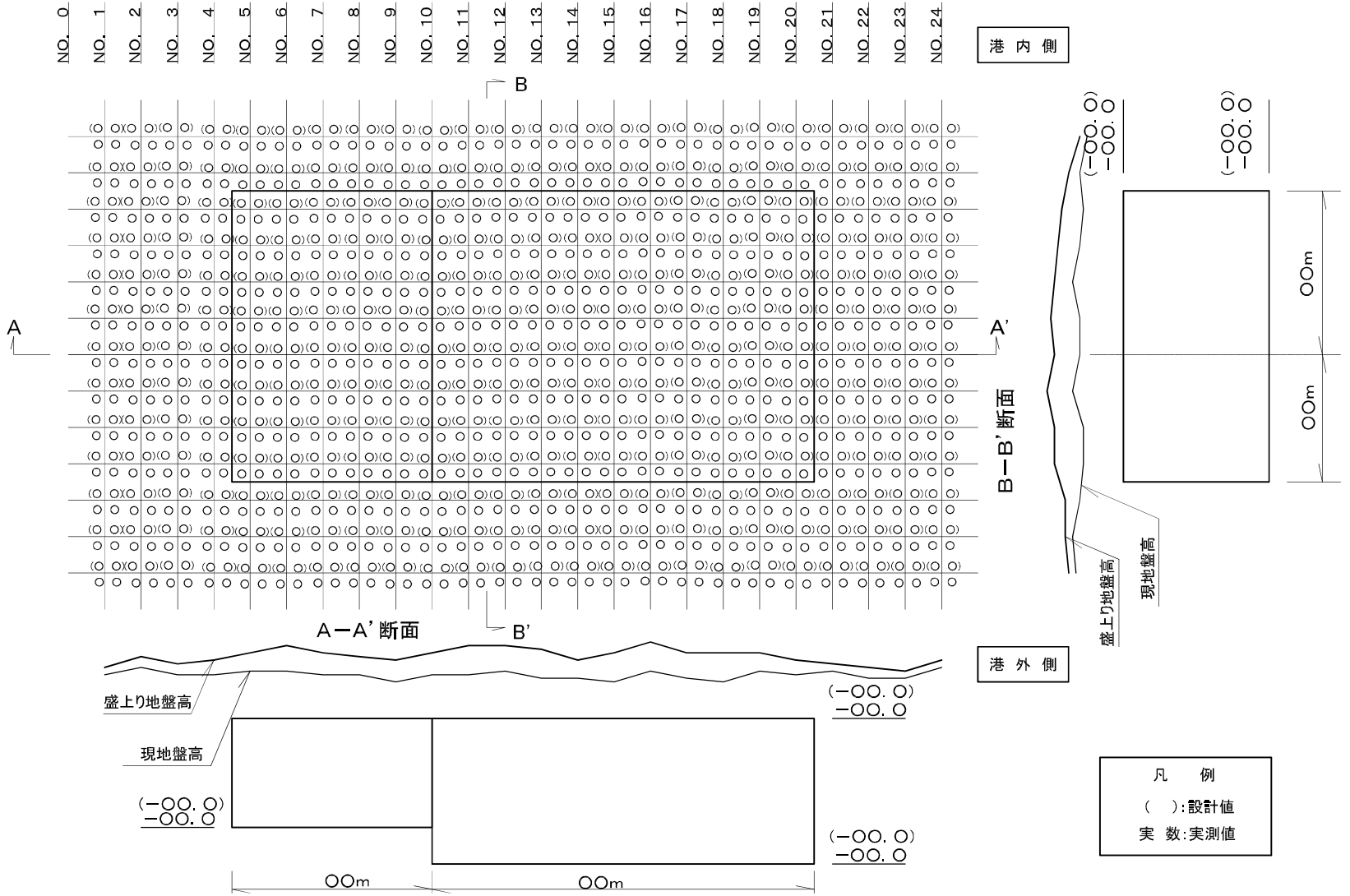
打設杭NO	ＳＣＰ部					ＳＤ部					全砂量				
	設計		実施		累計打設量	設計		実施		累計打設量	設計		実施		累計打設量
	打設長	打設量	打設長	打設量		打設長	打設量	打設長	打設量		打設長	打設量	打設長	打設量	
Ａ－1															
Ａ－2															
○－○															
○－○															
○－○															
○－○															
○－○															
計															

工事名：

様式・出来形1－2－2(3)

締固工　深浅図

平　面　図



様式・出来形1ー3ー1(1)

深層混合処理杭出来形管理表

平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

NO.		打 設 位 置		杭出来形			スラリー量		NO.		打 設 位 置		杭出来形			スラリー量	
		X方向	Y方向	天端高	先端深度	改良長	総吐出量	1m当り			X方向	Y方向	天端高	先端深度	改良長	総吐出量	1m当り
	設計値									設計値							
	実測値									実測値							
	差									差							

様式・出来形１－３－１(2)

深層混合処理杭鉛直度管理表

平成　　年　　月　　日

工事名：

現場代理人

NO.	測定深度	鉛　直　度				NO.	測定深度	鉛　直　度				NO.	測定深度	鉛　直　度			
		（X 方 向）		（Y 方 向）				（X 方 向）		（Y 方 向）				（X 方 向）		（Y 方 向）	
		分	秒	分	秒			分	秒	分	秒			分	秒	分	秒

様式・出来形1－4－1(1)

洗掘防止マット出来形管理表

平成　年　月　日

工事名：

現場代理人

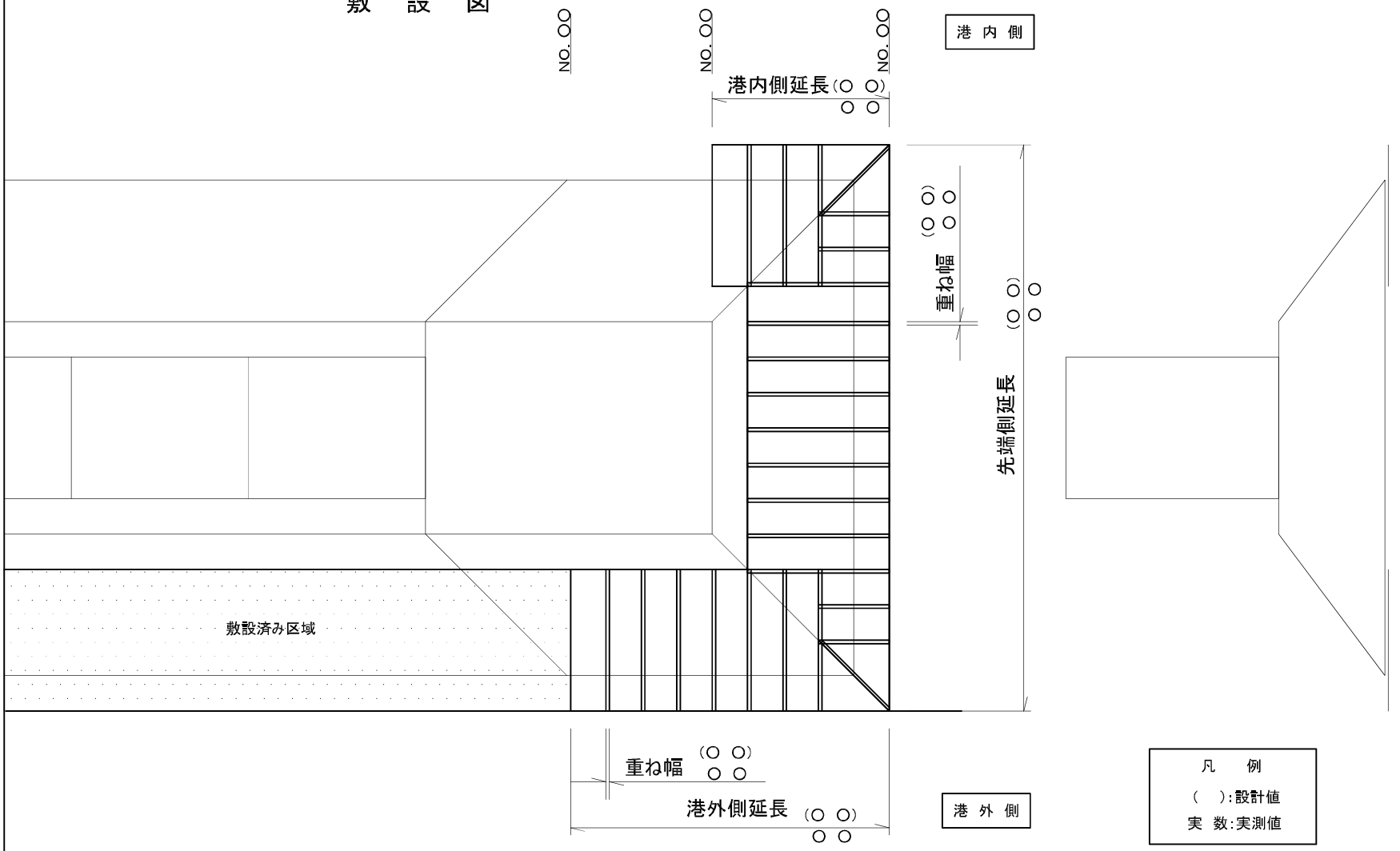
マットNO.		敷　設　月　日	測　定　値				備　考
			敷設位置	重ね幅	敷設幅	延　長	
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						
	設計値						
	実測値						
	差						

工事名：

様式・出来形1－4－1(2)

洗掘防止マット出来形管理図

敷　設　図



様式・出来形１－５－１

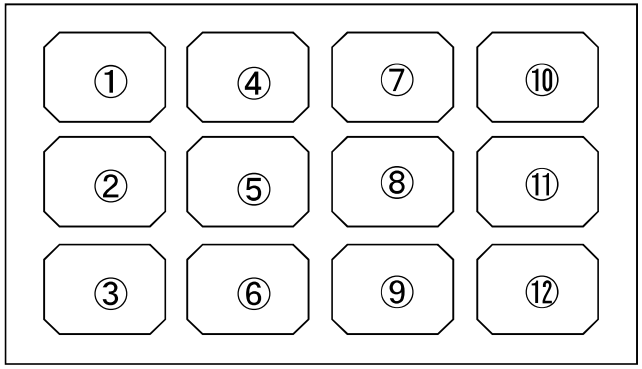
砂・石材中詰出来形管理表

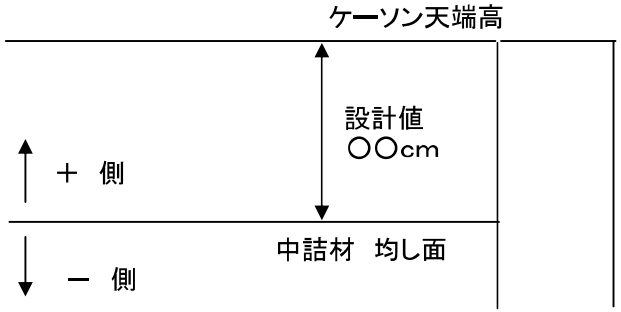
平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

測定位置	ケーソン天端からの値			測定位置	ケーソン天端からの値		
	実測値	設計値	差		実測値	設計値	差
①							
②							
③							
④							





様式・出来形１－６－１

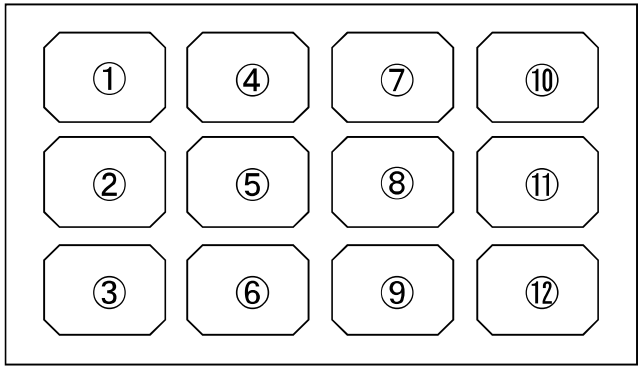
蓋コンクリート出来形管理表

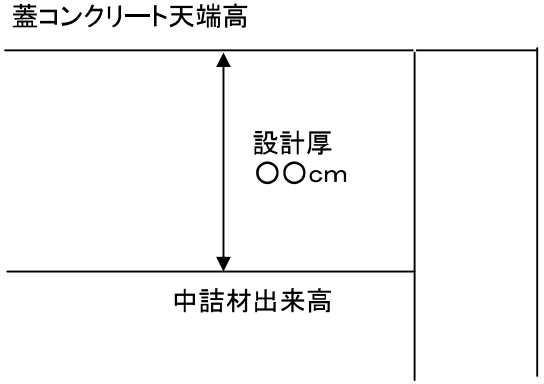
平成　年　月　日

工事名：

現場代理人

測定位置	ケーソン天端からの値			測定位置	ケーソン天端からの値		
	実測値	設計値	差		実測値	設計値	差
①							
②							
③							
④							





様式・出来形１－８－２

鋼矢板出来形管理表

平成　　年　　月　　日

工事名：

現場代理人

番　号	長　さ（ｍ）	打設年月日	矢　板　天　端　高（ｍ）			矢　板　先　端　高（ｍ）			矢板法線に対する出入り（ｍｍ）			矢板法線に対する傾斜	矢板法線方向の傾斜	備　考
			設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	実測値(cm)	実測値(1/1000)	

様式・出来形1－9－5

腹起出来形管理表

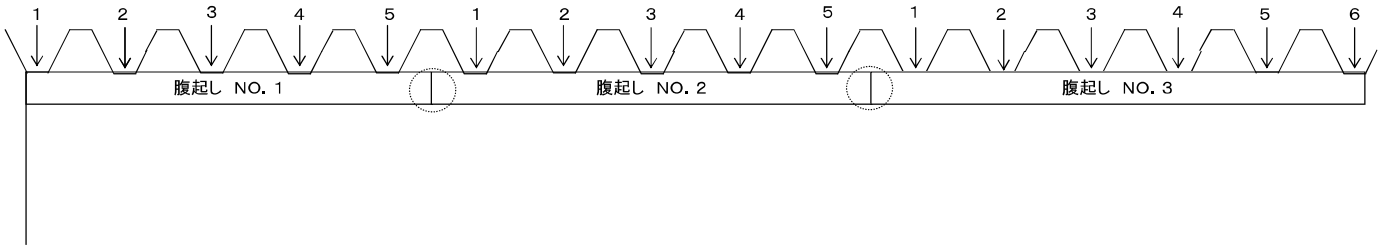
平成　年　月　日

現場代理人

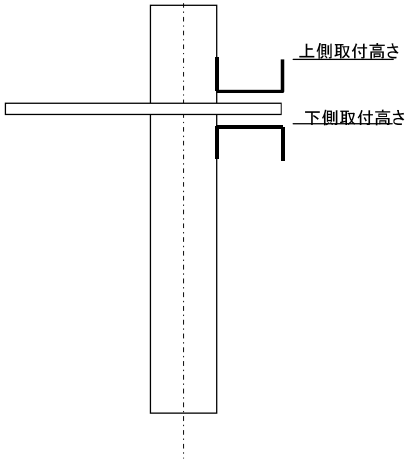
測点 ＼ 種別			取付高さ 上側	取付高さ 下側	取付長さ	継手の状況
NO. 1	始点側	設計値				
		測定値				
		差				
	終点側	設計値				
		測定値				
		差				
NO. 2	始点側	設計値				
		測定値				
		差				
	終点側	設計値				
		測定値				
		差				
NO. 3	始点側	設計値				
		測定値				
		差				
	終点側	設計値				
		測定値				
		差				

位置 腹起し NO	位置 ボルト NO	ボルトの取付状況	矢板との密着状況	備考
NO. 1	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
NO. 2	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
NO. 3	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			

平　面　図



断　面　図



様式・出来形１－９－６

タイ材出来形管理表

平成　年　月　日

工事名：

現場代理人

海側矢板（杭）部

取付番号	取付高さ	水平度	支保材の天端高	矢板法線に対する取付角度	矢板法線に対する取付間隔	定着ナットの締付け
NO. 1						
NO. 2						
NO. O						
NO. O						
NO. O						
NO. O						

陸側控矢板（杭）部

取付番号	取付高さ	水平度	支保材の天端高	矢板法線に対する取付角度	矢板法線に対する取付間隔	定着ナットの締付け
NO. 1’						
NO. 2’						
NO. O’						
NO. O’						
NO. O’						
NO. O’						

様式・出来形1－10－2(1)

鋼杭打込記録

平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

打設年月日				標高	50cmごとの打撃回数	累計打撃回数	50cmごとの平均貫入量	リバウンド量	ラム落下高	摘　　要
杭番号										
外径				(m)	(回)	(回)	(cm)	(cm)	(m)	
杭長										
板厚										
メーカー										
打込み時間										
杭打機 名称										
型式										
全重量										
ラム重量										
打止管理		設計値	実測値							
	天端高(m)									
	先端深度(m)									
	地盤高(m)									
	根入長(m)									
	総打撃回数									
	最終貫入量(S)									
	リバウンド量(K)									
許容支持力	設計値	実測値								
許容支持力算定式	$Ru=\frac{ef\times 2WH}{S+1/2K}$ ef:ハンマーの効率＝0．5 H:ハンマーの落下高(m) W:ハンマーの重量(kN)									

様式・出来形1－10－2(2)

鋼杭出来形管理表

平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

番　号	長　さ (m)	打設　年月日	杭頭中心位置 (m)						杭頭天端高 (m)			杭先天端高 (m)			杭の傾斜 (度)		備　考
			設計値		実測値		差		設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	
			法線直角方向	法線平行方向	法線直角方向	法線平行方向	法線直角方向	法線平行方向									

様式・出来形1－12－1(1)

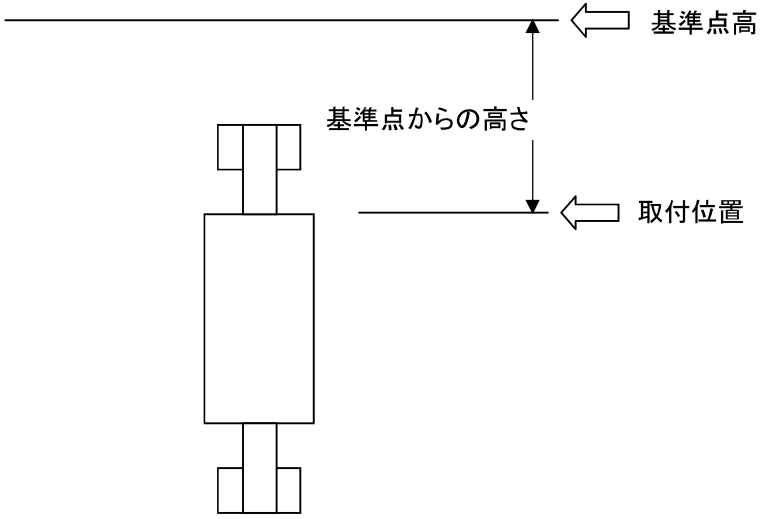
電気防食出来形管理表

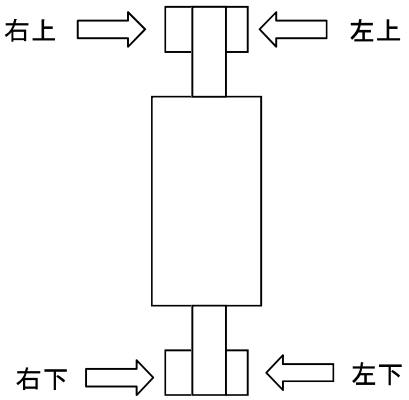
平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

	陽極取付							溶接部							
	取付位置			基準点からの高さ				溶接長				脚長			
陽極NO	設計値	実測値	差	基準点高	設計値	実測値	差	右上	左上	右下	左下	右上	左上	右下	左下





様式・出来形1－12－1(2)

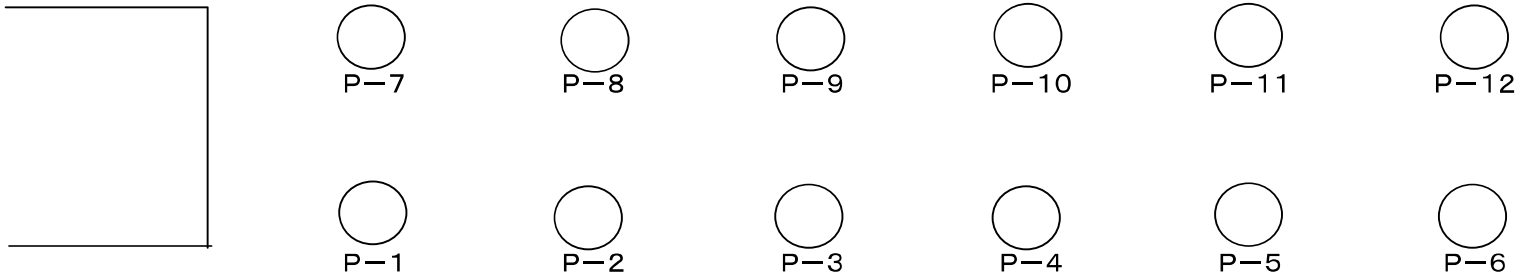
電気防食電位測定管理表

平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

測定水深	測定位置												備考	
	P－1	P－2	P－3	P－4	P－5	P－6	P－7	P－8	P－9	P－10	P－11	P－12		



様式・出来形1－13－1(1)

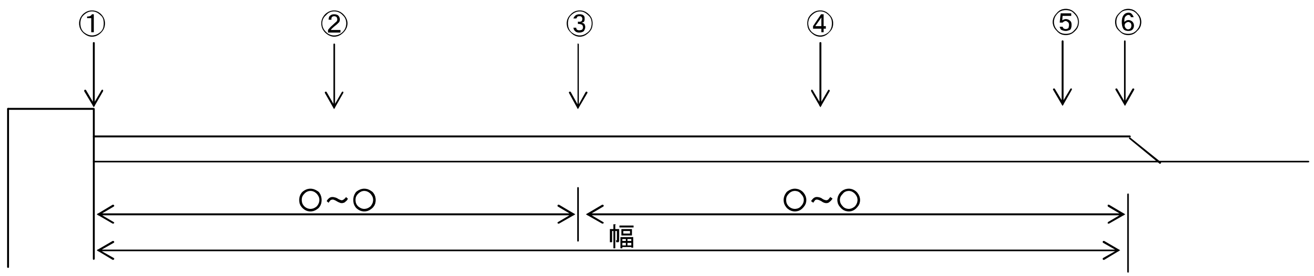
路盤出来形管理表

平成　　年　　月　　日

工事名：

現場代理人

測点＼種別		高さ							幅			延長		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	○～○	○～○	○～○	①線上	法線上	○線上
	路盤設計厚	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○．○○m	○．○○m	○．○○m	○．○○m	○．○○m	○．○○m
NO．○○	路床高													
	路盤高													
	厚さ													
NO．○○														
NO．○○ ＋○．○○														
NO．○○														

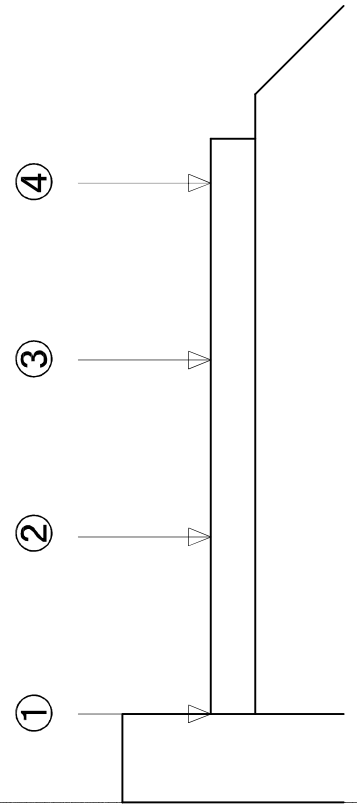


工事名：

様式・出来形1－13－1(2)

路盤出来形管理図

(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00



凡　例

（　）：設計値

実　数：実測値

様式・出来形1－14－3(1)

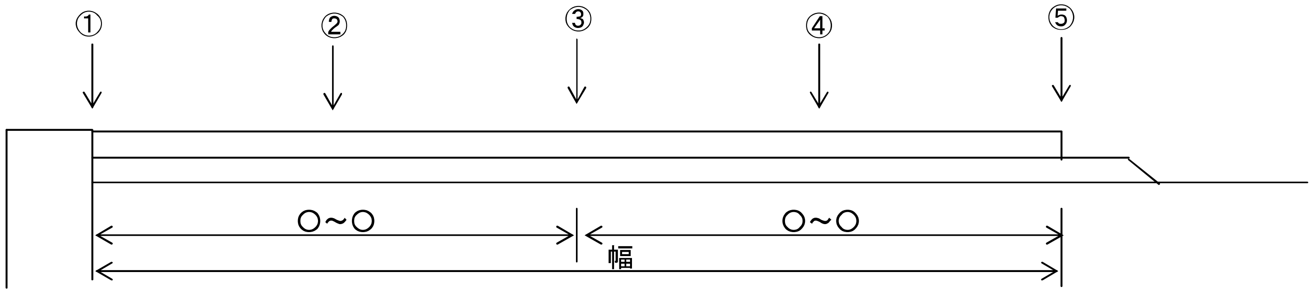
舗装出来形管理表

平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

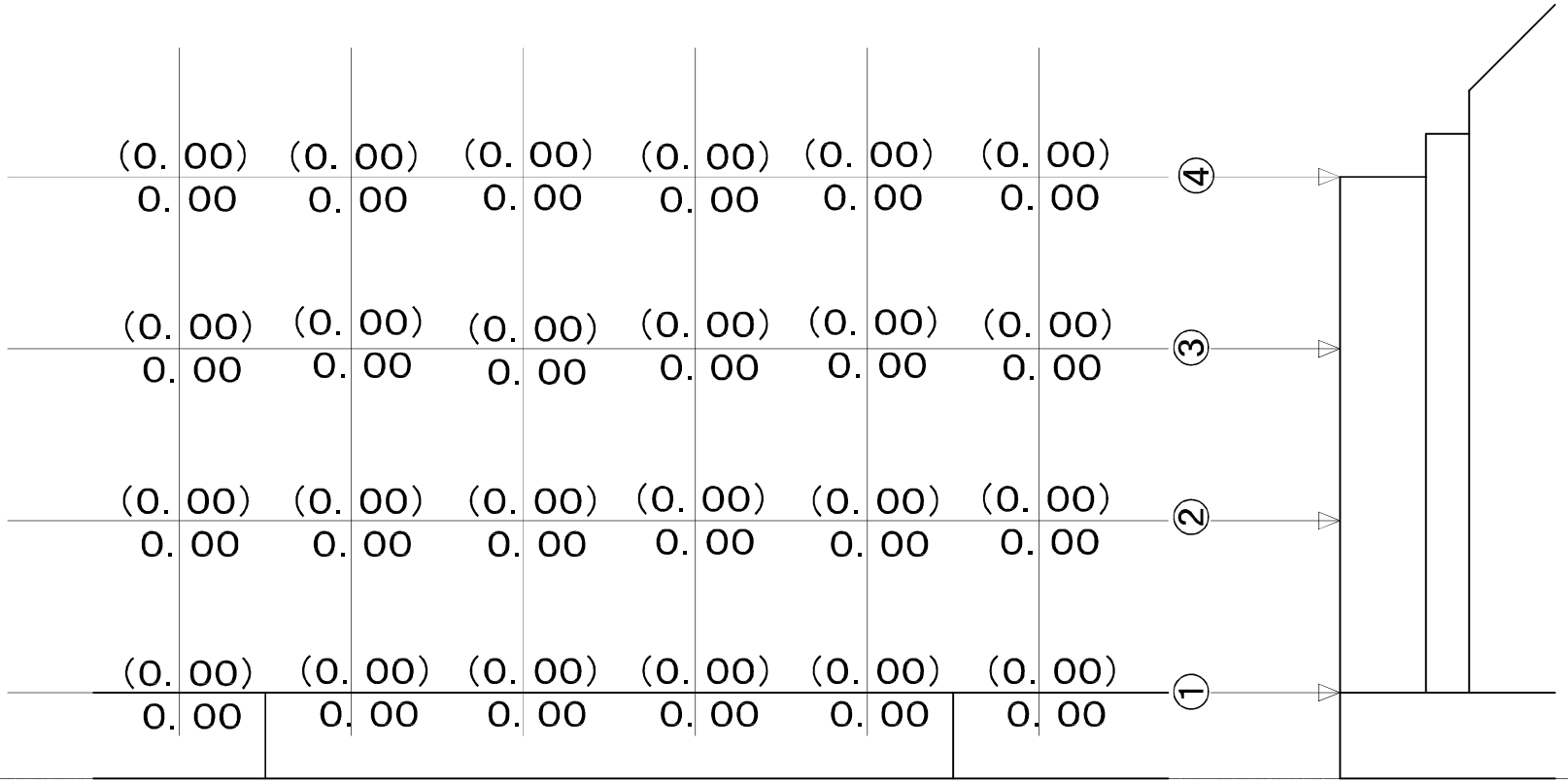
測点	種別	高			さ				幅			延	長	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	○～○	○～○	○～○	①線上	法線上	○線上
	舗装設計厚	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○.○○m	○.○○m	○.○○m	○.○○m	○.○○m	○.○○m
NO.○○	路盤高													
	天端高													
	厚さ													
NO.○○														
NO.○○ +○.○○														
NO.○○														



様式・出来形1－14－3(2)

工事名：

舗装出来形管理図



凡　例

(　):設計値

実　数:実測値

様式・出来形3－2－1

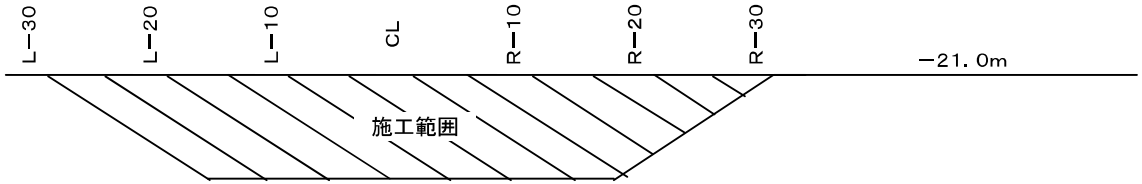
置換材出来形管理表

平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

測点＼種別		天端高							天端幅		延長		
		L－30m	L－20m	L－10m	CL	R－10m	R－20m	R－30m	港外側	港内側	港外側	法線上	港内側
NO. ○○	設計値										NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○
	測定値										～	～	～
	差												
NO. ○○＋○. ○○	設計値												
	測定値												
	差												
NO. ○○	設計値												
	測定値												
	差												
NO. ○○＋○. ○○	設計値												
	測定値												
	差												
NO. ○○	設計値												
	測定値												
	差												
NO. ○○＋○. ○○	設計値												
	測定値												
	差												
NO. ○○	設計値												
	測定値												
	差												
NO. ○○	設計値												
	測定値												
	差												
NO. ○○	設計値												
	測定値												
	差												
NO. ○○	設計値												
	測定値												
	差												
NO. ○○	設計値										～	～	～
	測定値										NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○
	差												

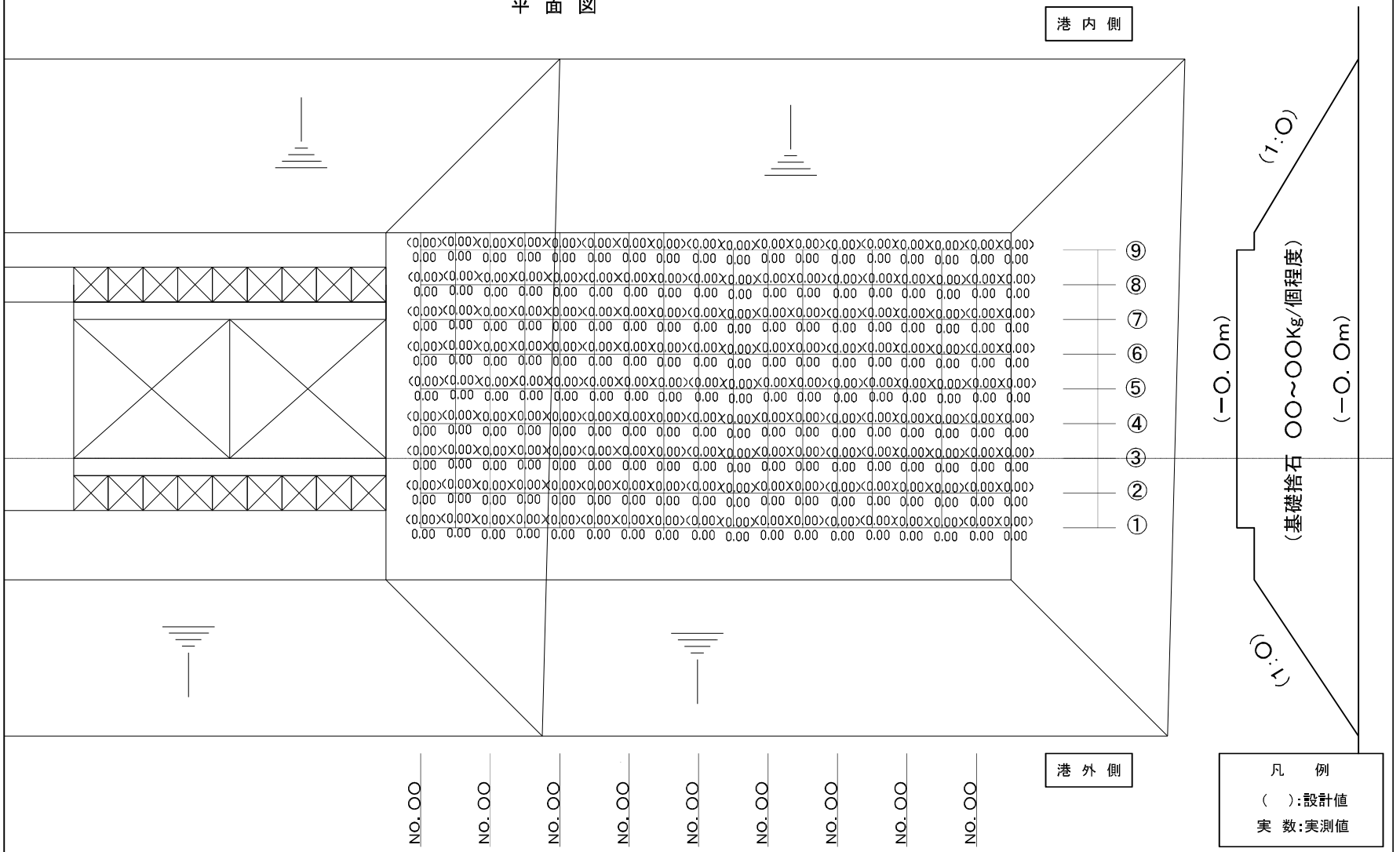


様式・出来形4－3－2(1)

工事名：

基礎石均し出来形管理図(1)

平 面 図



凡　例

(　):設計値

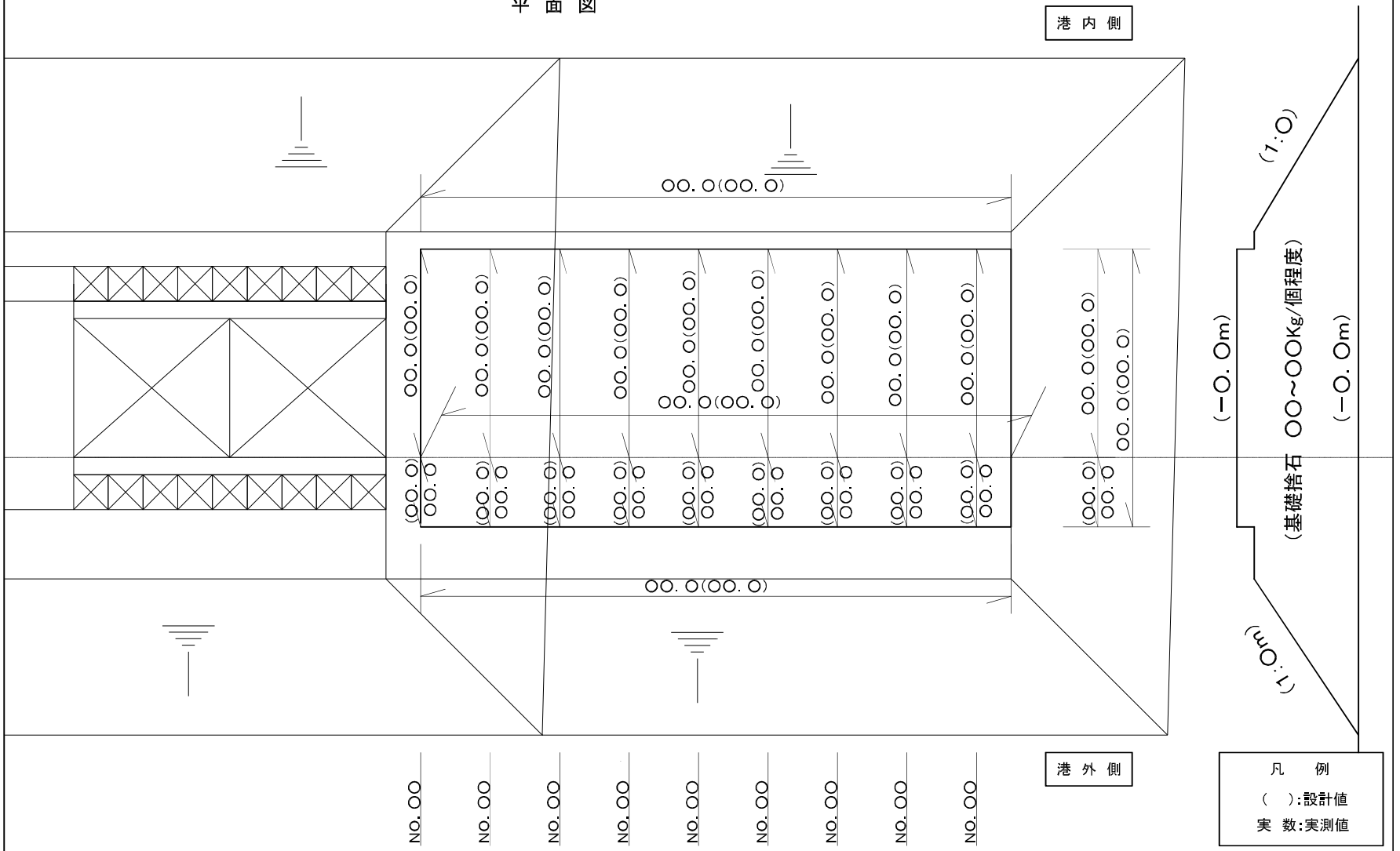
実　数:実測値

工事名:

様式・出来形4－3－2(2)

基礎石均し出来形管理図(2)

平 面 図



凡 例

( ):設計値

実 数:実測値

様式・出来形５－１－１

ケーソン製作出来形管理表

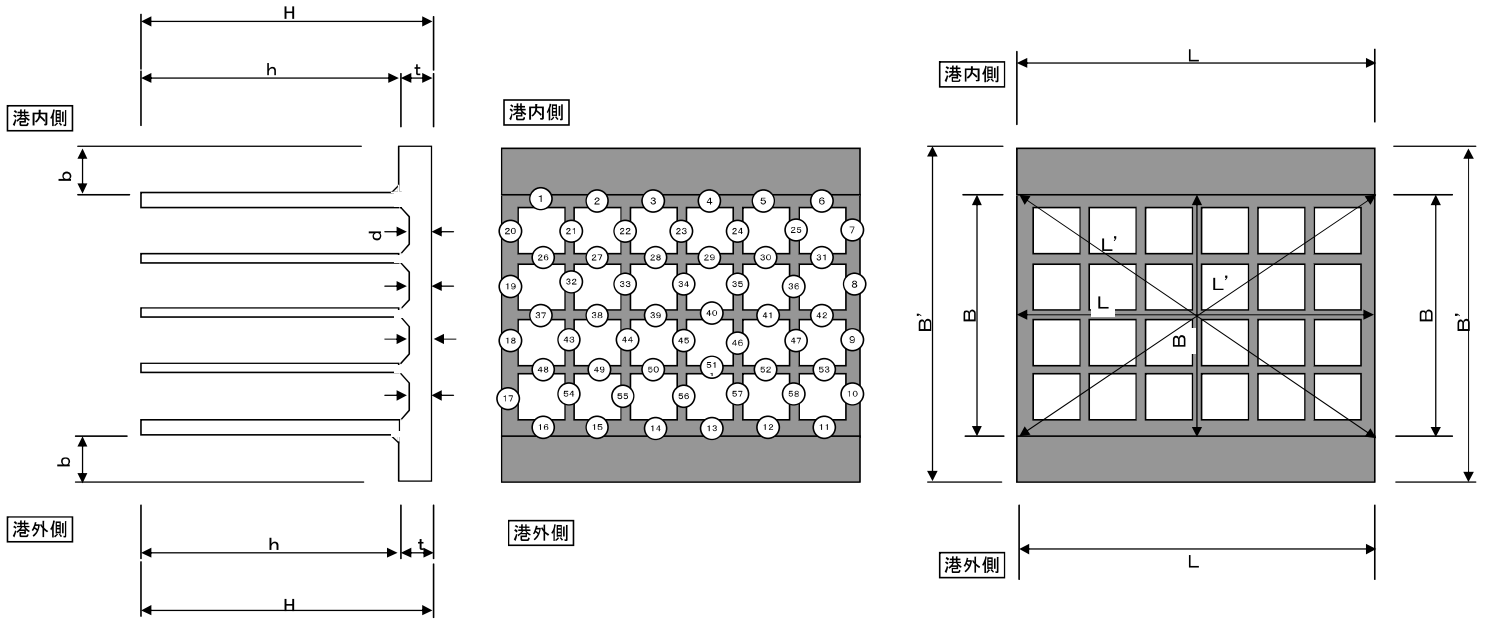
平成　　年　　月　　日

工事名：

現場代理人

○○区用　○○号函　○○段目

測定項目	規　格	箇　所	測定値	検査値	差	箇　所	測定値	検査値	差	箇　所	測定値	検査値	差
＜壁　厚＞ 側壁＝○○ 隔壁＝○○	±○○												
＜ﾌｰﾁﾝｸﾞ＞ B'＝○○ L＝○○ b＝○○ t＝○○	＋○○ －○○												
＜底版厚＞ d＝○○	＋○○ －○○												
＜延　長＞ L＝○○	＋○○ －○○												
＜　幅　＞ B＝○○	＋○○ －○○												
＜対　角＞ L'＝○○	±○○												
＜高　さ＞ H＝○○	＋○○ －○○												



様式・出来形5－2－1

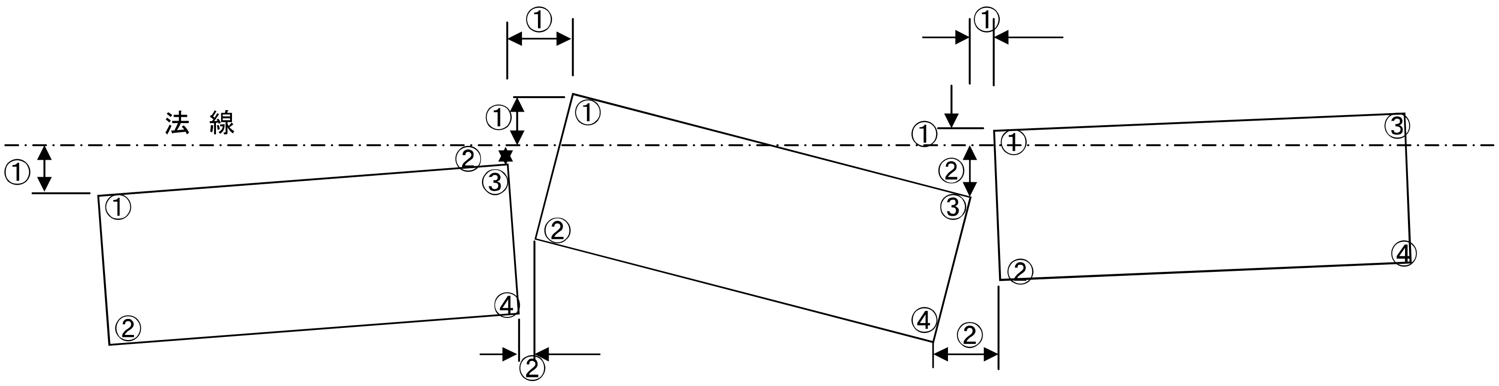
ケーソン据付出来形管理表

平成　年　月　日

工事名：

現場代理人

ケーソン番号	法線に対する出入り					据付目地間隔					天　端　高　さ				
	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差
NO．1						－					①				
											②				
											③				
											④				
						－									



様式・出来形6ー1(1)

ブロック(方塊)製作出来形管理表

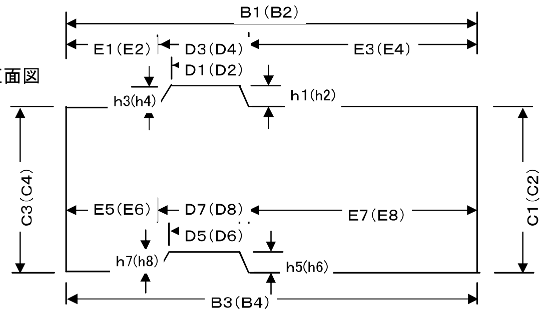
平成　年　月　日

工事名:

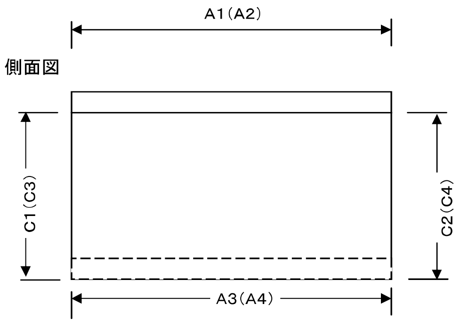
現場代理人

製作番号		長　さ				幅				高　さ				凸部幅								凹部幅								突起よりの距離								対角線	
		上側		下側		上側		下側		右側		左側		上側		下側		右側		左側		上側		下側		右側		左側		上側				下側					
		B1	B2	B3	B4	A1	A2	A3	A4	C1	C2	C3	C4	D1	D2	D3	D4	h1	h2	h3	h4	D5	D6	D7	D8	h5	h6	h7	h8	E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	T1	T2
	設計値																																						
	実測値																																						
	差																																						

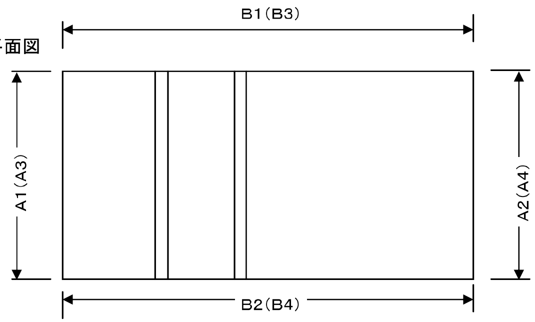
正面図



側面図



平面図



様式・出来形6ー1(2)

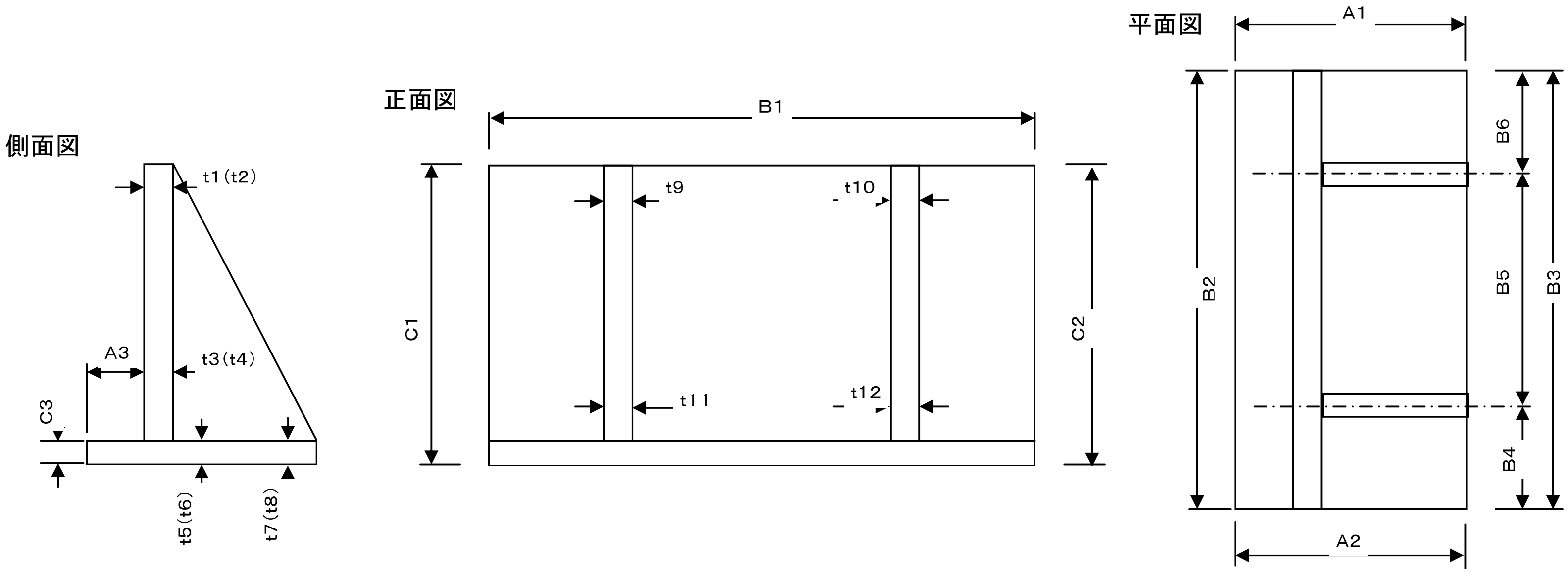
L型ブロック製作出来形管理表

平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

製作番号		幅			長　さ						高　さ			各　部　材　厚　さ											
		A1	A2	A3	B1	B2	B3	B4	B5	B6	C1	C2	C3	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	t9	t10	t11	t12
	設計値																								
	実測値																								
	差																								



様式・出来形6－1(3)

セルラーブロック製作出来形管理表

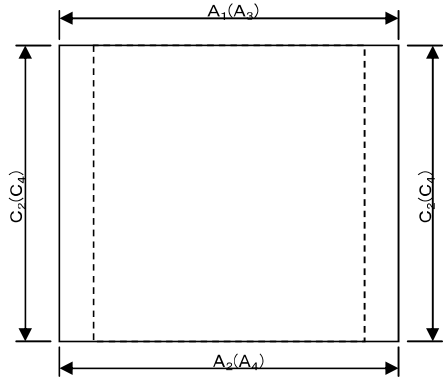
平成　年　月　日

工事名:

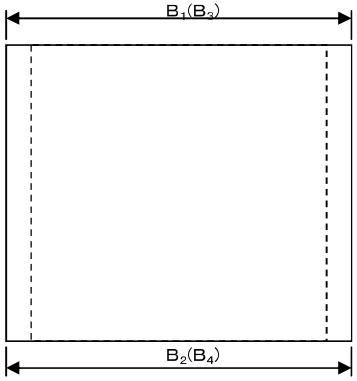
現場代理人

製作番号		幅				長　さ				高　さ				各　部　材　厚　さ								対角線	
		A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	ℓ1	ℓ2
	設計値																						
	実測値																						
	差																						

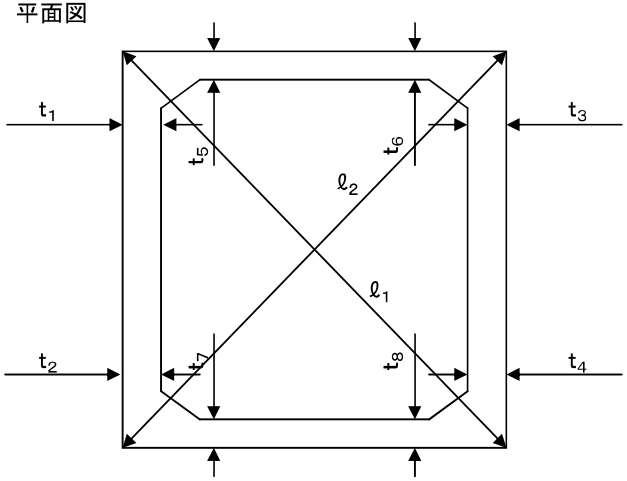
側面図



正面図



平面図



様式・出来形６－1(4)

ブロック製作等　外見チェックリスト

平成　　年　　月　　日

工事名:

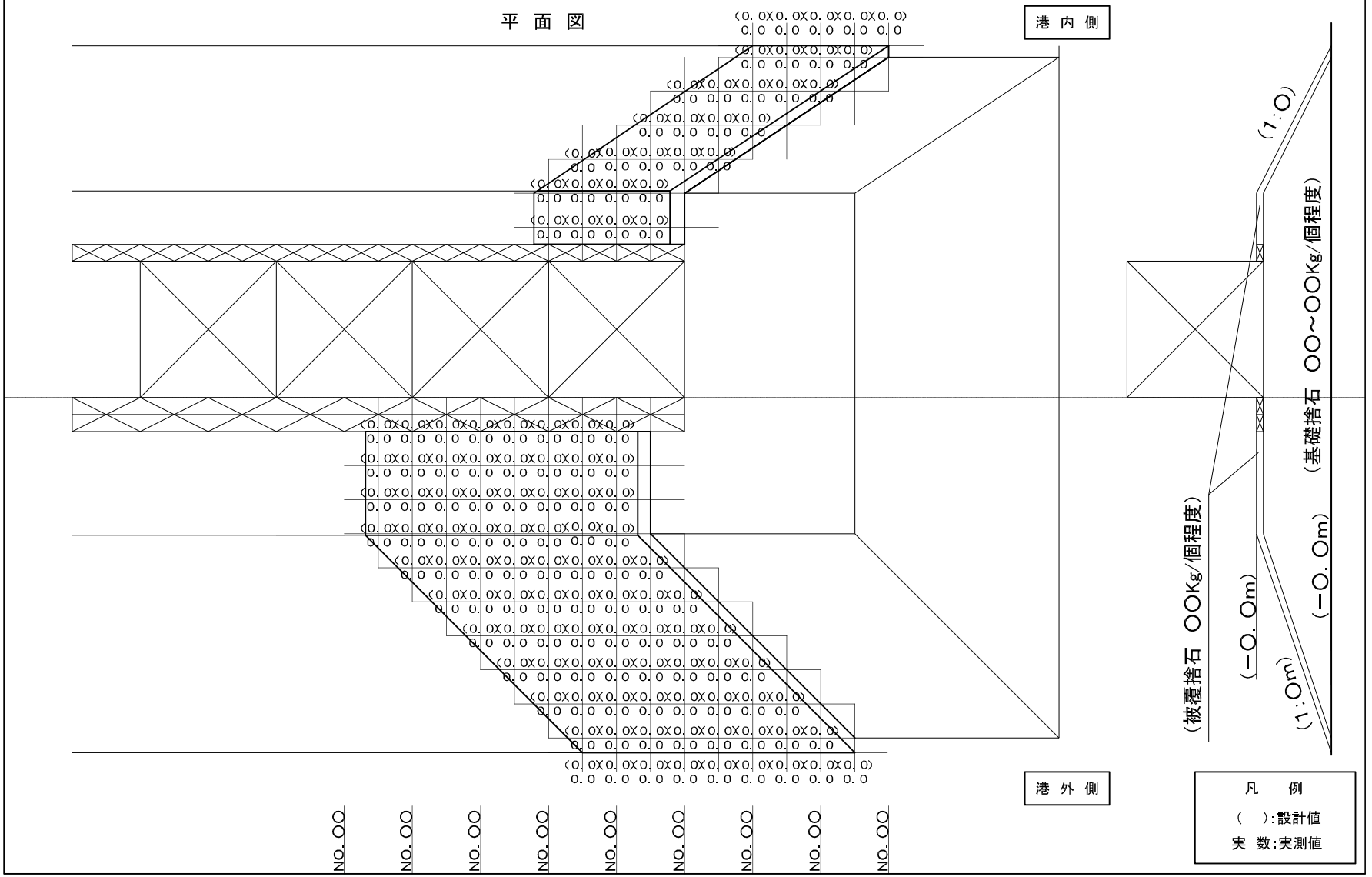
現場代理人

チ　ェ　ッ　ク　項　目	
製作番号（ブロックNO）	
製作日	
検査日	
大きな気泡はないか	
ひびわれはないか	
豆板（ジャンカ）はないか	
ワイヤー傷はないか	
ブロックのカケはないか	
泥などの付着はないか	
ナンバリングに誤記はないか	
その他	
総　　評	
略　　図	

工事名：

様式・出来形13－1－1(1)

被覆石均し出来形管理図（1）

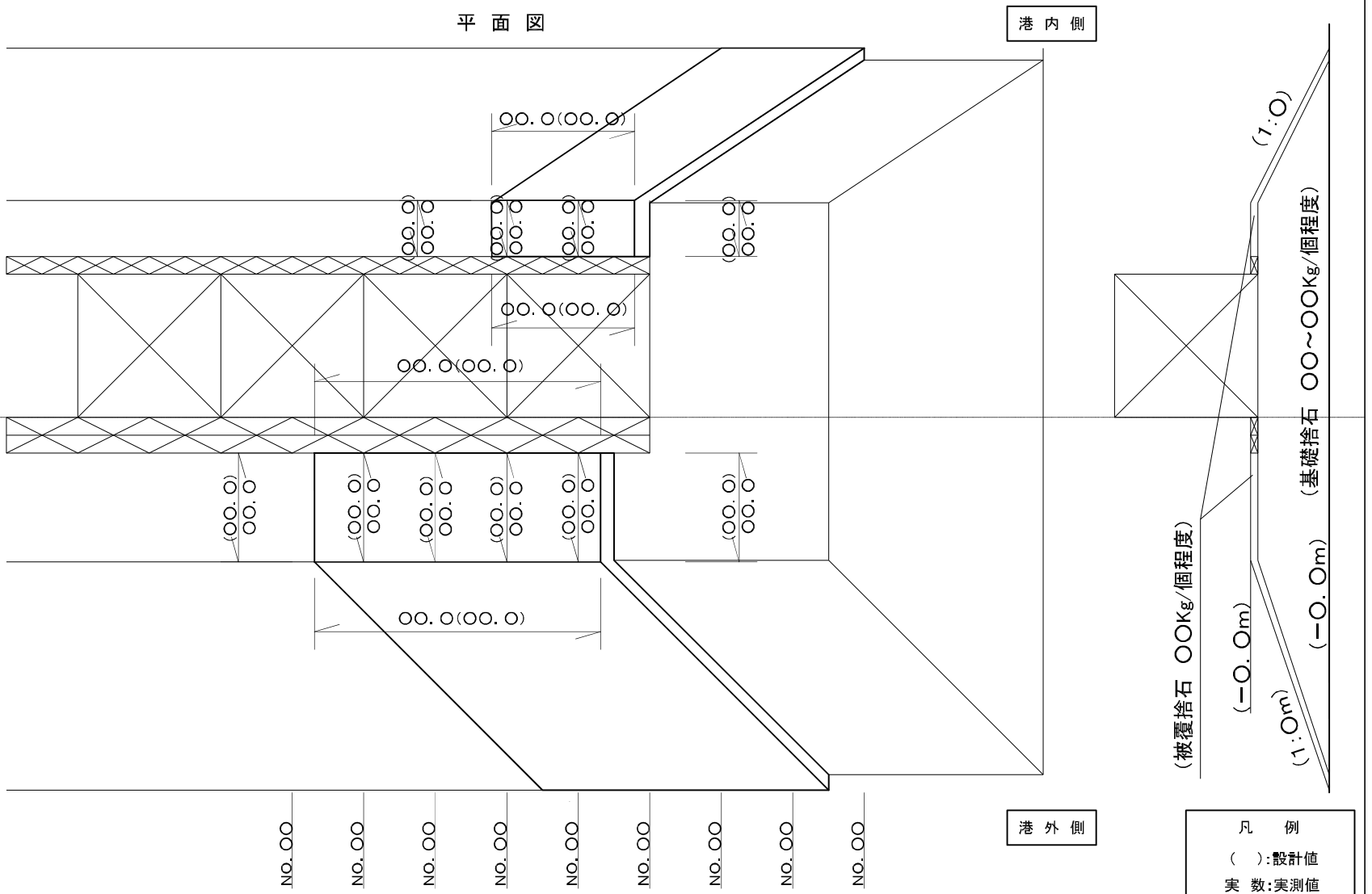


工事名：

様式・出来形13－1－1(2)

被覆石均し出来形管理図(2)

平 面 図



凡　例

(　):設計値

実　数:実測値

様式・出来形13ー3ー1

根固ブロック製作出来形管理表

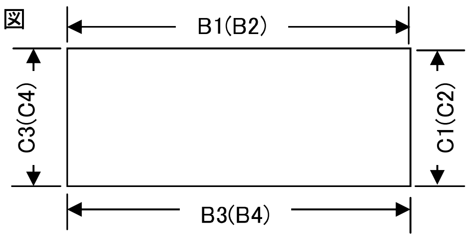
工事名:

平成　　年　　月　　日

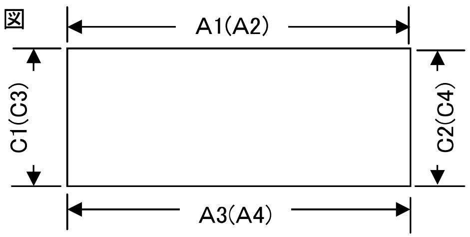
現場代理人

製作番号		長　さ				幅				長　さ				対角線		備　考
		上側		下側		上側		下側		右側		左側		ℓ1	ℓ2	
		B1	B2	B3	B4	A1	A2	A3	A4	C1	C2	C3	C4			
	設計値															
	実測値															
	差															

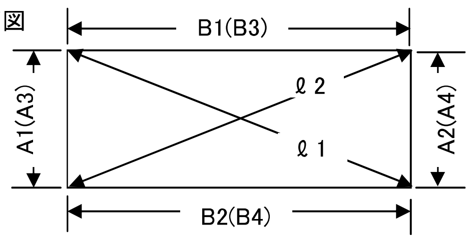
正面図



側面図



平面図



様式・出来形14－1(1)

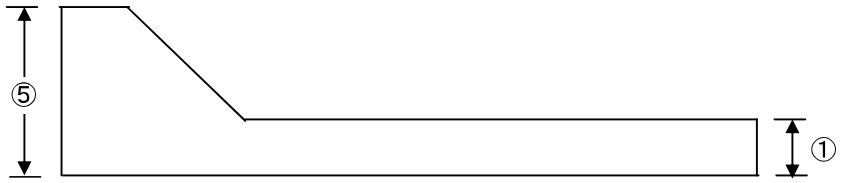
上部コンクリート(防波堤)出来形管理表

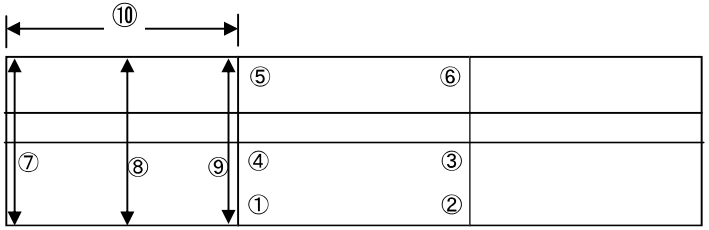
平成　年　月　日

工事名：

現場代理人

ケーソン等 NO.	測定月日	天端高（厚さ）				天端幅				延長				法線に対する出入り			
		測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差
		①				⑦				⑩							
		②				⑧											
		③				⑨											
		④															
		⑤															
		⑥															





様式・出来形14－1(2)

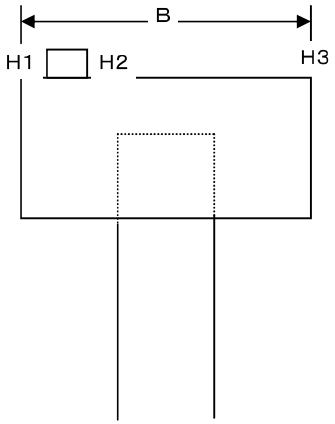
上部コンクリート(岸壁)出来形管理表

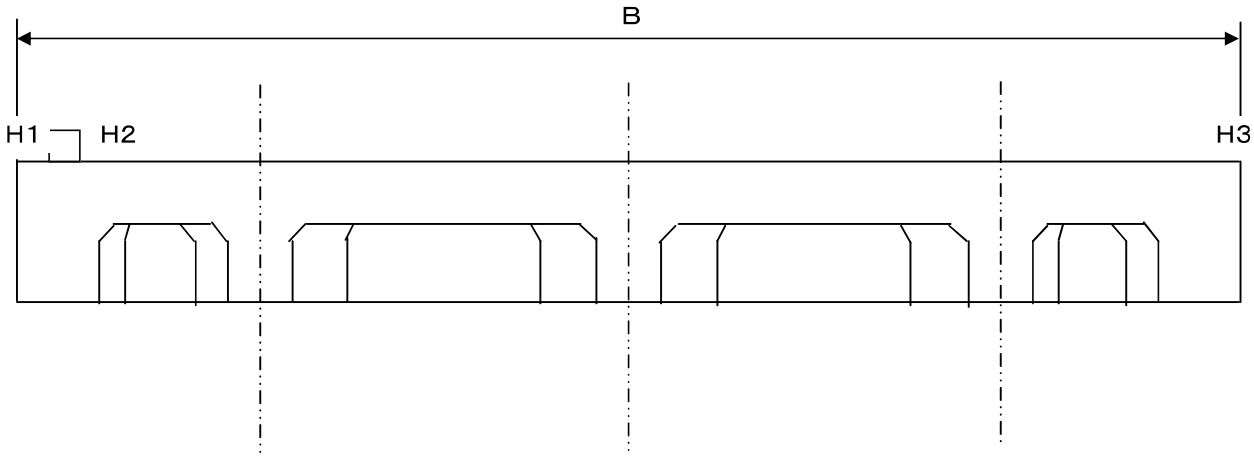
平成　年　月　日

工事名：

現場代理人

測点	天端高（厚さ）									天端幅			延長			法線に対する出入り		
	H1			H2			H3			B			L					
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差





様式・出来形15－1－1

係船柱出来形管理表

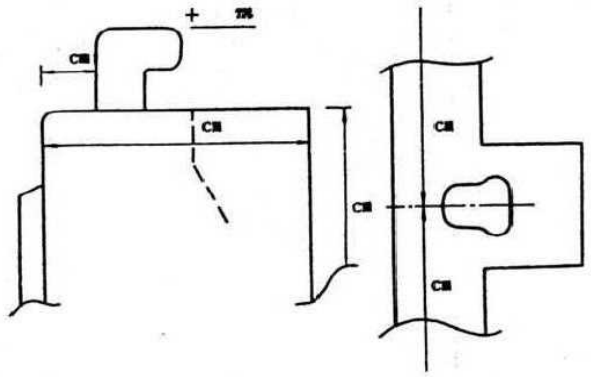
平成　年　月　日

工事名：

現場代理人

番号	岸壁前面に対する出入り	天端高	中心間隔	基礎コンクリート（直柱）			備　考
				幅	長さ	高さ	
基点0より	－	－	－	－	－	－	

係船柱測定位置図



様式・出来形15－2－1

防舷材出来形管理表

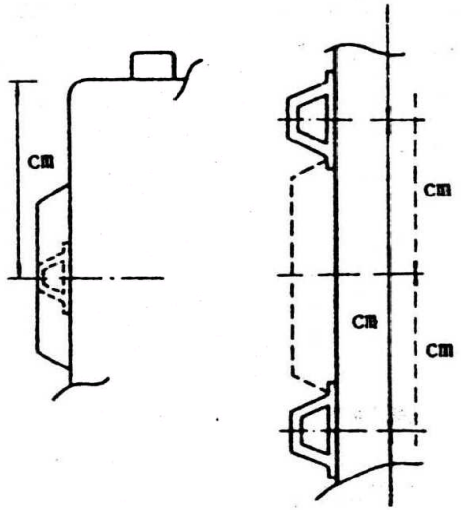
平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

番　号	取付高さ	中心間隔	備　　考
基点Oより	ー	ー	

防舷材測定位置図



様式・出来形15－3－1

車止出来形管理表

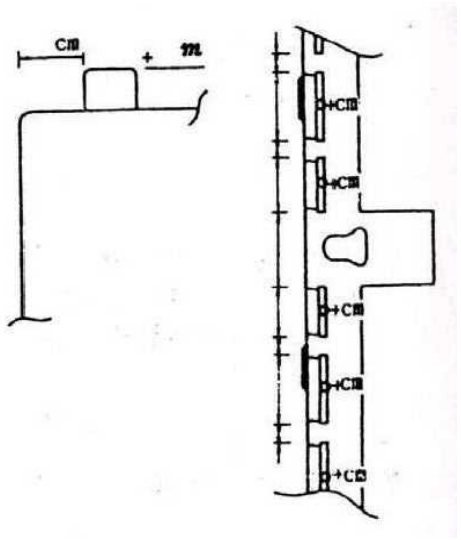
平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

番号	岸壁前面に対する出入り	天端高	取付間隔	備　考
基点Oより	－	－	－	

車止測定位置図



様式・出来形17ー3ー1

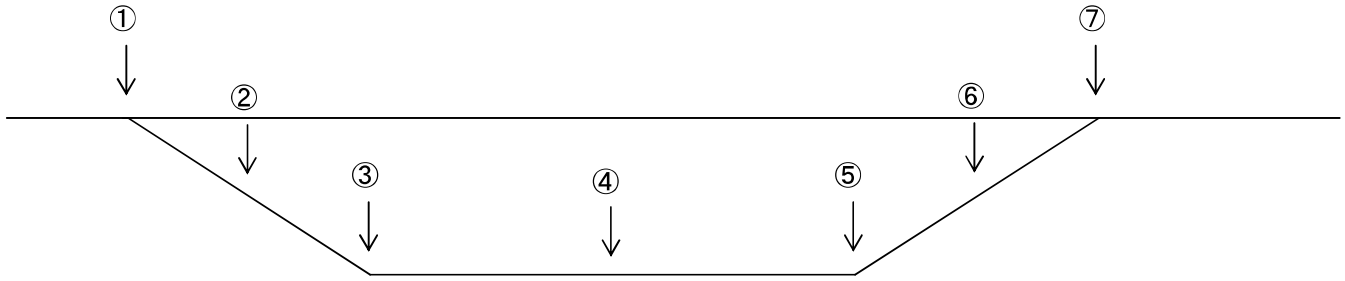
土砂掘削出来形管理表

平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

種別 / 測点		高さ							幅			延長		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	○～○	○～○	○～○	○線上	法線上	○線上
NO. ○○	設計値													
	測定値											NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○
	差											～	～	～
NO. ○○														
NO. ○○														
												～	～	～
												NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○



様式・出来形24－1－1(1)

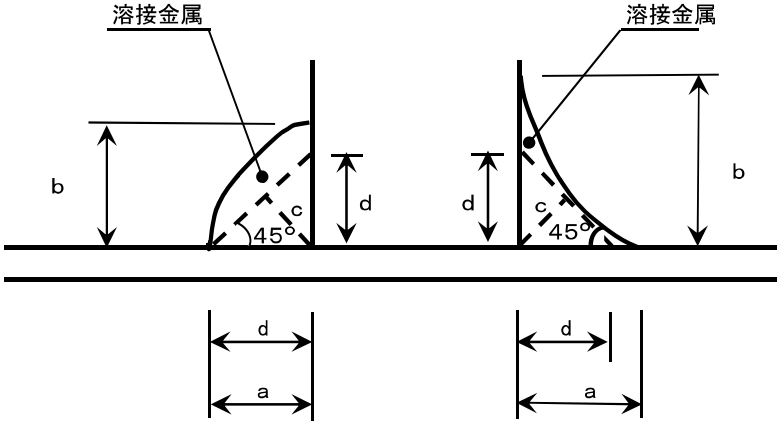
すみ肉溶接出来形管理表

平成　年　月　日

工事名：

現場代理人

測定箇所		溶接脚長 a	溶接脚長 b	のど厚 c	サイズ d	溶接長	測定箇所		溶接脚長 a	溶接脚長 b	のど厚 c	サイズ d	溶接長
	設計値							設計値					
	実測値							実測値					
	差							差					



※サイズdの算定について

●2つの脚長a，bの長さが異なる場合、サイズの算定には、短い脚長を基準に45°の線を引き、これをサイズとする。この場合45°の線はすべて溶融金属中にあること。

●溶接ビード形状が凹型の場合（左図の右側）、溶接ゲージにより、直接のど厚を計測出来るため、サイズは計測しなくて良い。

様式・出来形24－1－1(2)

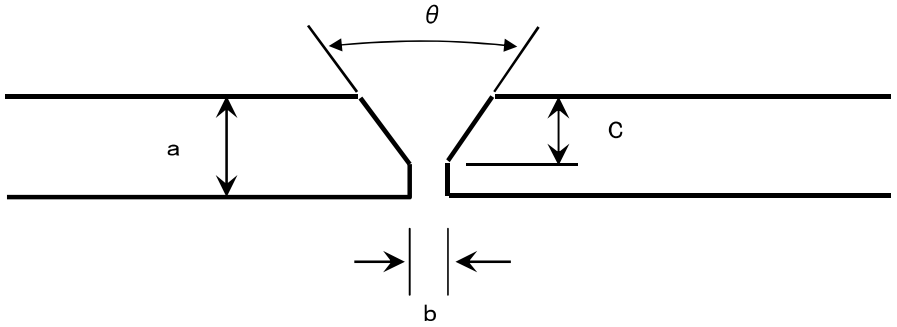
突合せ溶接出来形管理表

平成　年　月　日

工事名:

現場代理人

測定箇所		のど厚 a	ルート間隔 b	開先深さ c	開先角度 θ	溶　接　長	測定箇所		のど厚 a	ルート間隔 b	開先深さ c	開先角度 θ	溶　接　長
	設計値							設計値					
	実測値							実測値					
	差							差					



様式・出来形24－1－1(3)

鉄筋フレア溶接出来形管理表

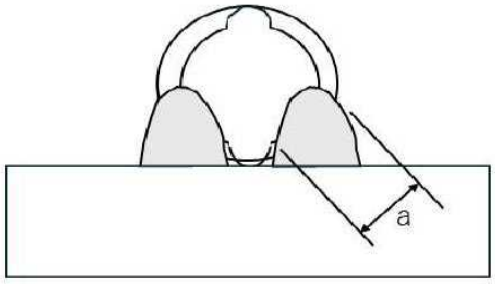
令和　年　月　日

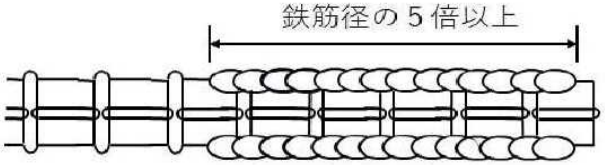
工事名:

現場代理人

測定個所		鉄筋径 D	のど厚 a	溶　接　長	測定個所		鉄筋径 D	のど厚 a	溶　接　長
	設計値					設計値			
	実測値					実測値			
	差					差			

有効のど厚　a ＝鉄筋径D／4





様式・出来形25－1(1)

浚渫出来形管理表

平成　年　月　日

工事名：

現場代理人

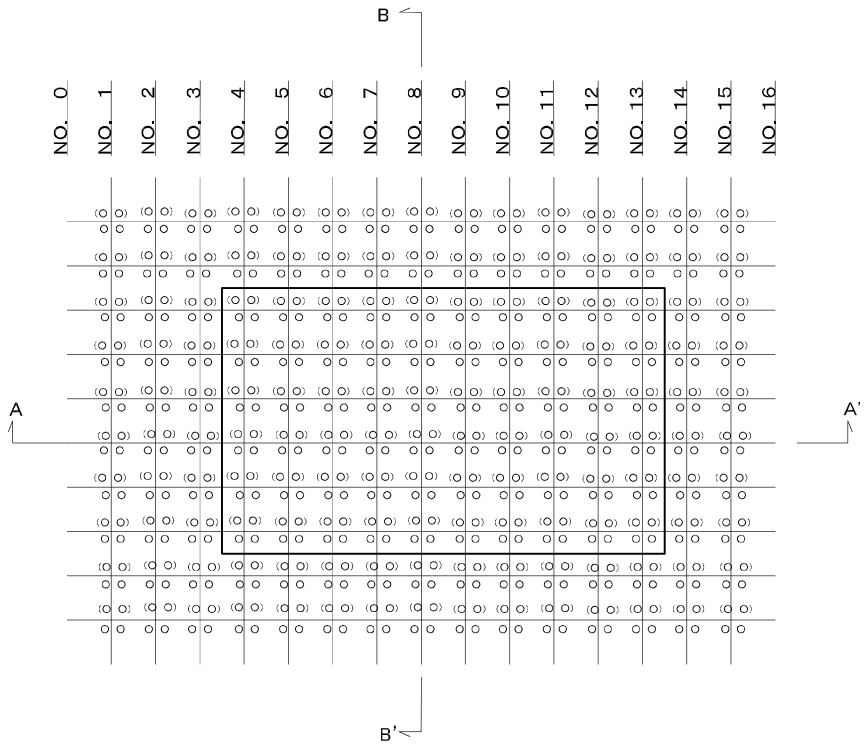
測点NO. / 距離NO.		NO. ○○	NO. ○○ ＋○. ○m	NO. ○○	NO. ○○ ＋○. ○m	NO. ○○	NO. ○○ ＋○. ○m	NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○
＋○○. ○m	設計値	15.20												
	測定値	15.30												
	差	−0.10												
＋○○. ○m	設計値													
	測定値													
	差													
＋○○. ○m	設計値													
	測定値													
	差													
＋○○. ○m	設計値													
	測定値													
	差													
＋○○. ○m	設計値													
	測定値													
	差													
＋○○. ○m	設計値													
	測定値													
	差													
＋○○. ○m	設計値													
	測定値													
	差													
＋○○. ○m	設計値													
	測定値													
	差													
＋○○. ○m	設計値													
	測定値													
	差													
＋○○. ○m	設計値													
	測定値													
	差													

様式・出来形25－1(2)

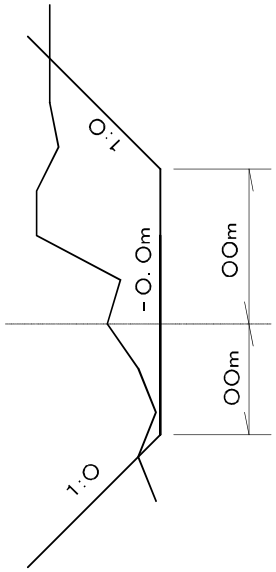
工事名：

浚渫出来形管理図

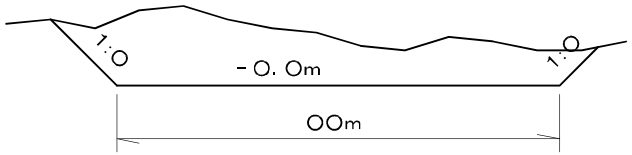
深　浅　図



B－B'断面



A－A'断面



凡　例

(　　)：設計値

実　数：実測値